



日・ASEAN友好協力
40周年記念事業

ASEAN 情報マップ

ASEAN Information Map



ASEAN-JAPAN CENTRE

国際機関日本アセアンセンター(東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター)

www.asean.or.jp

国際機関日本アセアンセンター(東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター)
〒105-0004東京都港区新橋6-17-19 新御成門ビル 1階 代表: Tel 03-5402-8001

本資料の掲載情報について

本資料は ASEAN の概要と数十年間の ASEAN の変化を図表で示し、ASEAN 事情を鳥瞰していただくことを目的とし作成したため、複数の情報源を便宜的に整理して掲載した個所があります。各国際機関・政府統計の手法が異なる、調査対象地域・国の情報・統計等が整っていない等の事情があり、例えば、人口や貿易投資額等の数値についても、図表によって異なる数値が掲載されています点、ご注意ください。また、本資料はデジタル媒体としてご利用いただけるように当センターのウェブサイトにも掲載されています。データを拡大してより詳細な閲覧が可能です。

なお、本資料に掲載された情報利用の採否は、最終的にご利用者の責任と判断によります点、また当センターの提供した情報に関連して、万が一、ご利用者が不利益を被る事態が生じたとしても、当センターは責任を負いかねますこと、ご了承ください。

引用・転載の際は、出所を明記してください。コメント等がありましたら、info_in@asean.or.jp までご連絡ください。

2013年7月作成(第二刷)

役立つウェブサイト

国内

総務省統計局
(Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications)
<http://www.e-stat.go.jp>
外務省 (Ministry of Foreign Affairs)
<http://www.mofa.go.jp>
経済産業省 (Ministry of Economy, Trade and Industry)
<http://www.meti.go.jp>
観光庁 (Japan Tourism Agency)
<http://www.mlit.go.jp/kankochou>
財務省 (Ministry of Finance)
<http://www.mof.go.jp>
日本貿易振興機構 (JETRO)
<http://www.jetro.go.jp/index.html>
中小企業基盤整備機構
<http://www.smrj.go.jp>
日本政府観光局 (Japan National Tourist Organization)
<http://www.jnto.go.jp>
国際協力銀行 (JBIC)
<http://www.jbic.go.jp/ja>
日本関税協会 (Japan Tariff Association)
<http://www.kanzei.or.jp>

海外

東南アジア諸国連合
(ASEAN : Association of Southeast Asia Nations)
<http://www.aseansec.org>
国際通貨基金 (IMF : International Monetary Fund)
<http://www.imf.org>
世界銀行 (World Bank)
<http://www.worldbank.org>
アジア開発銀行 (ADB : Asian Development Bank)
<http://www.adb.org>
国連貿易開発会議
(UNCTAD : United Nations Conference on Trade and Development)
<http://www.unctad.org>
国連開発計画
(UNDP : United Nations Development Programme)
<http://www.undp.org/content/undp/en/home.html>
経済協力開発機構
(OECD : Organization of Economic Co-operation and Development)
<http://www.oecd.org>
世界旅行産業会議
(WTTC : World Travel and Tourism Council)
<http://www.wttc.org>

各国

ブルネイ・ダルサラーム

経済計画開発局統計局
(Department of Statistics, Department of Economic Planning and Development)
http://www.dep.gov.bn/statistic_data.html
外務貿易省 (Ministry of Foreign Affairs & Trade)
<http://www.mofat.gov.bn>
経済開発局
(Brunei Economic Development Board)
<http://www.bedb.com.bn>
工業開発局
(Brunei Industrial Development Authority)
<http://www.bina.gov.bn>
政府観光局
(Tourism Development Department, Ministry of Industry and Primary Resources)
<http://www.bruneitourism.travel>

カンボジア

国家統計研究所 (National Institute of Statistics)
<http://www.nis.gov.kh>
商業省 (Ministry of Commerce)
<http://www.moc.gov.kh>
開発評議会 (投資担当部局) (Cambodia Investment Board)
<http://www.cambodiainvestment.gov.kh>
観光省 (Ministry of Tourism)
<http://www.tourismcambodia.org>

インドネシア

中央統計局 (Central Bureau of Statistics)
<http://www.bps.go.id/eng/index.php>
輸出振興庁
(Directorate General for National Export Development)
http://dipen.kemendag.go.id/app_frontend
投資調整庁
(The Investment Coordinating Board of Indonesia)
<http://www.bkpm.go.id>
観光創造経済省
(Visit Indonesia Tourism Officer (VITO), Ministry of Tourism and Creative Economy)
<http://www.visitindonesia.jp>
<http://www.budpar.go.id/asp/index.asp>

ラオス

統計局 (Lao Statistics Bureau)
<http://www.nsc.gov.la>
計画投資省
(Investment Promotion Department (IPD), Ministry of Planning and Investment)
http://www.investlaos.gov.la/show_encontent.php?contID=1
商工省
(Trade and Product Promotion Department (TPPD), Ministry of Industry and Commerce)
<http://www.laotrade.org.la>
情報文化観光省 (Ministry of Information, Culture and Tourism)
<http://www.lao.jp>

マレーシア

統計局 (Department of Statistics)
<http://www.statistics.gov.my/main/main.php>
貿易開発公社
(MATRADE : Malaysia Trade Development Corporation)
<http://matrade.gov.my>
投資開発局
(Malaysian Investment Development Authority)
<http://www.midajapan.or.jp>
政府観光局 (Malaysia Tourism Promotion Board)
<http://corporate.tourism.gov.my>
<http://www.tourismmalaysia.or.jp>

ミャンマー

中央統計局 (Central Statistical Organization)
https://www.mnped.gov.mm/index.php?option=com_content&view=article&id=2&Itemid=3&lang=en
商務省 (Ministry of Commerce)
<http://www.commerce.gov.mm/index.php?lang=en>
投資企業管理局
(Directorate of Investment and Company Administration)
<http://www.dica.gov.mm/dica.htm>
国家計画経済開発省
(Ministry of National Planning and Economic Development)
<http://www.mnped.gov.mm>
ホテル観光省 (Ministry of Hotels and Tourism)
<http://www.tourism-myanmar.org>

フィリピン

国家統計調整委員会 (National Statistical Coordination Board)
<http://www.nscb.gov.ph/#page=t1>
国際貿易振興センター
(Center of International Trade Expositions and Missions)
<http://www.citem.com.ph>

投資委員会 (Philippine Board of Investments)
<http://www.boi.gov.ph>
経済区庁 (Philippine Economic Zone Authority)
<http://www.peza.gov.ph>
貿易産業省 (Department of Trade and Industry)
<http://www.dti.gov.ph/splash.php>
観光省 (Department of Tourism)
<http://itsmorefuninthephilippines.com>
<http://www.premium-philippines.com/index.html>

シンガポール

統計局 (Statistics Singapore)
<http://www.singstat.gov.sg>
国際企業庁
(International Enterprise Singapore)
<http://www.iesingapore.gov.sg/wps/portal>
経済開発庁 (Economic Development Board)
<http://www.edb.gov.sg/edb/sg/jp/index.html>
政府観光局 (Singapore Tourism Board)
<http://www.yoursingapore.com>

タイ

国家統計局 (National Statistical Office)
<http://web.nso.go.th/index.htm>
輸出振興局
(Department of International Trade Promotion)
<http://www.thaitrade.com/Home/tabid/36/Default.aspx>
投資委員会 (Thailand Board of Investment)
<http://www.boi.go.th/index.php?page=index&language=ja>
観光庁 (Tourism Authority of Thailand)
<http://www.thailandtravel.or.jp>
<http://www.tourismthailand.com>

ベトナム

統計総局 (General Statistics Office Of Vietnam)
http://www.gso.gov.vn/default_en.aspx?tabid=491
商業省貿易促進庁
(Vietnam Trade Promotion Agency)
<http://www.vietrade.gov.vn/en>
計画投資省外国投資庁
(Foreign Investment Agency, Ministry of Planning and Investment)
<http://fia.mpi.gov.vn/Default.aspx>
観光総局
(Vietnam National Administration of Tourism)
<http://www.vietnamtourism.gov.vn/english>

ブルネイ・ダルサラーム国



面積：5,767km²
 人口：約 40 万人（2013 年推定値）
 首都：パンダル・スリ・ブガワン
 政体：立憲君主制
 主な言語：マレー語、英語
 主な宗教：イスラム教
 通貨：ブルネイ・ドル

カンボジア王国



面積：181,035km²
 人口：約 1,541 万人（2013 年推定値）
 首都：プノンペン
 政体：立憲君主制
 主な言語：クメール語
 主な宗教：仏教
 通貨：リエル

インドネシア共和国



面積：1,904,569km²
 人口：約 2 億 4,795 万人（2013 年推定値）
 首都：ジャカルタ
 政体：共和制
 主な言語：インドネシア語
 主な宗教：イスラム教
 通貨：ルピア

ラオス人民民主共和国



面積：236,800km²
 人口：約 647 万人（2013 年推定値）
 首都：ビエンチャン
 政体：人民民主共和制
 主な言語：ラオス語
 主な宗教：仏教
 通貨：キップ

マレーシア



面積：330,803km²
 人口：約 2,946 万人（2013 年推定値）
 首都：クアラルンプール
 政体：立憲君主制（議会制民主主義）
 主な言語：マレー語、英語、中国語、タミール語
 主な宗教：イスラム教
 通貨：リンギ

ASEAN 加盟国紹介



ASEAN www.asean.org

名称：東南アジア諸国連合
 (Association of South East Asian Nations)
 設立：1967 年 8 月 8 日（於：バンコク）
 ASEAN 事務局：ジャカルタ
 レ・ルオン・ミン事務局長（2013～）

加盟国
 (1) 原加盟国：インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ
 (2) 新規加盟国：ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア

目的
 (1) 域内における経済成長、社会・文化的発展の促進
 (2) 地域における政治・経済的安定の確保
 (3) 域内諸問題の解決

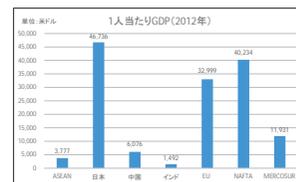
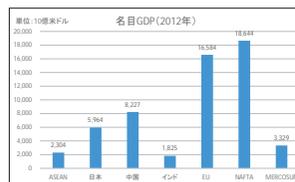
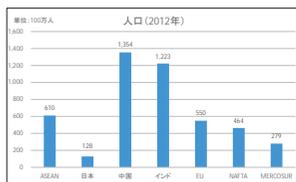
『ASEAN 共同体』への試み

ASEAN 共同体とは？
 3 つの共同体（安全保障共同体、経済共同体、社会・文化共同体）を基に設立される共同体で、2015 年の設立が合意されています。特に ASEAN 経済共同体では、ASEAN 域内での物品の自由な移動、サービス貿易の自由化、投資の自由化、資本の自由な移動、熟練労働者の自由な移動等がうたわれており、ASEAN 域内外で活躍する日本企業にとっても重要な進展として、その行方が注目されています。

2015 年の ASEAN 共同体設立のために、3 つの共同体のブループリント（工程表）が 2007 年に採択されており、それに従い統合プロセスを実行しています。例えば、ASEAN 経済共同体のブループリントでは、経済共同体の 4 つの特徴として、単一の市場と生産基地、競争力のある経済地域、公平な経済発展、グローバル経済への統合を挙げ、実施のための仕組みや財源等についても言及しています。ブループリントの実施については、ASEAN 事務局がモニタリングを行っており、その結果は首脳会議および関係相会議に対して報告されています。

ASEAN 共同体は 2015 年の設立が予定されていますが、2015 年に完成されるとは考えられていません。15 年の設立後、更なる統合プロセスを模索するプラットフォームになると考えられており、その進展が注目されています。

ASEAN と他地域との基礎データ比較



出所：IMF World Economic Outlook Database, <http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2013/01/weodata/index.aspx>

ASEANの歴史

- 1967年 ASEAN（東南アジア諸国連合）設立宣言
- 1976年 第1回 ASEAN 首脳会議
東南アジア友好協力条約（通称：パリ条約）と ASEAN 協和宣言を採択
- 1977年 第1回日本 ASEAN 首脳会議
- 1984年 ブルネイ・ダルサラーム国加盟
- 1992年 ASEAN 自由貿易地域（AFTA）の創設を採択
- 1994年 ASEAN 地域フォーラム（ARF）開始
- 1995年 ベトナム社会主義共和国加盟
- 1997年 ラオス人民民主共和国加盟
ミャンマー連邦共和国加盟
第1回 ASEAN + 3（日本・中国・韓国）首脳会議
- 1999年 カンボジア王国加盟
ASEAN10 実現
- 2003年 第2回 ASEAN 協和宣言を採択
東京で初の日本 ASEAN 特別首脳会議
- 2005年 第1回東アジア首脳会議
- 2007年 ASEAN 憲章調印
- 2008年 ASEAN 憲章発効
日本 ASEAN 包括的経済連携協定発効
- 2013年 日・ASEAN 友好協力 40 周年
- 2015年 ASEAN 共同体設立（予定）



国際機関日本アセアンセンター www.asean.or.jp

国際機関日本アセアンセンターは、日本と ASEAN 諸国間の経済パートナーシップを強化するために、1981年に ASEAN 諸国と日本政府によって（東京に）設立された組織です。ASEAN 諸国から日本への輸出の促進、日本と ASEAN 諸国間の直接投資、観光、人物交流の促進活動（セミナー、展示会、視察ミッション、各種イベント、情報発信等）を行っています。詳細・メルマガ登録はウェブサイトまで。

ミャンマー連邦共和国



面積：678,500km²
 人口：約 6,495 万人（2013 年推定値）
 首都：ネーピードー（旧首都：ヤンゴン）
 政体：大統領制、共和制
 主な言語：ミャンマー語
 主な宗教：仏教
 通貨：チャット

フィリピン共和国



面積：299,764km²
 人口：約 9,748 万人（2013 年推定値）
 首都：マニラ
 政体：立憲共和制
 主な言語：フィリピン語（タガログ語に基づく）、英語
 主な宗教：カトリック
 通貨：ペソ

シンガポール共和国



面積：712.4km²
 人口：約 550 万人（2013 年推定値）
 首都：なし（都市国家）
 政体：立憲共和制
 主な言語：英語、中国語、マレー語、タミール語
 主な宗教：仏教、イスラム教、ヒンズー教
 通貨：シンガポール・ドル

タイ王国



面積：513,120km²
 人口：約 6,467 万人（2013 年推定値）
 首都：バンコク
 政体：立憲君主制
 主な言語：タイ語
 主な宗教：仏教
 通貨：バーツ

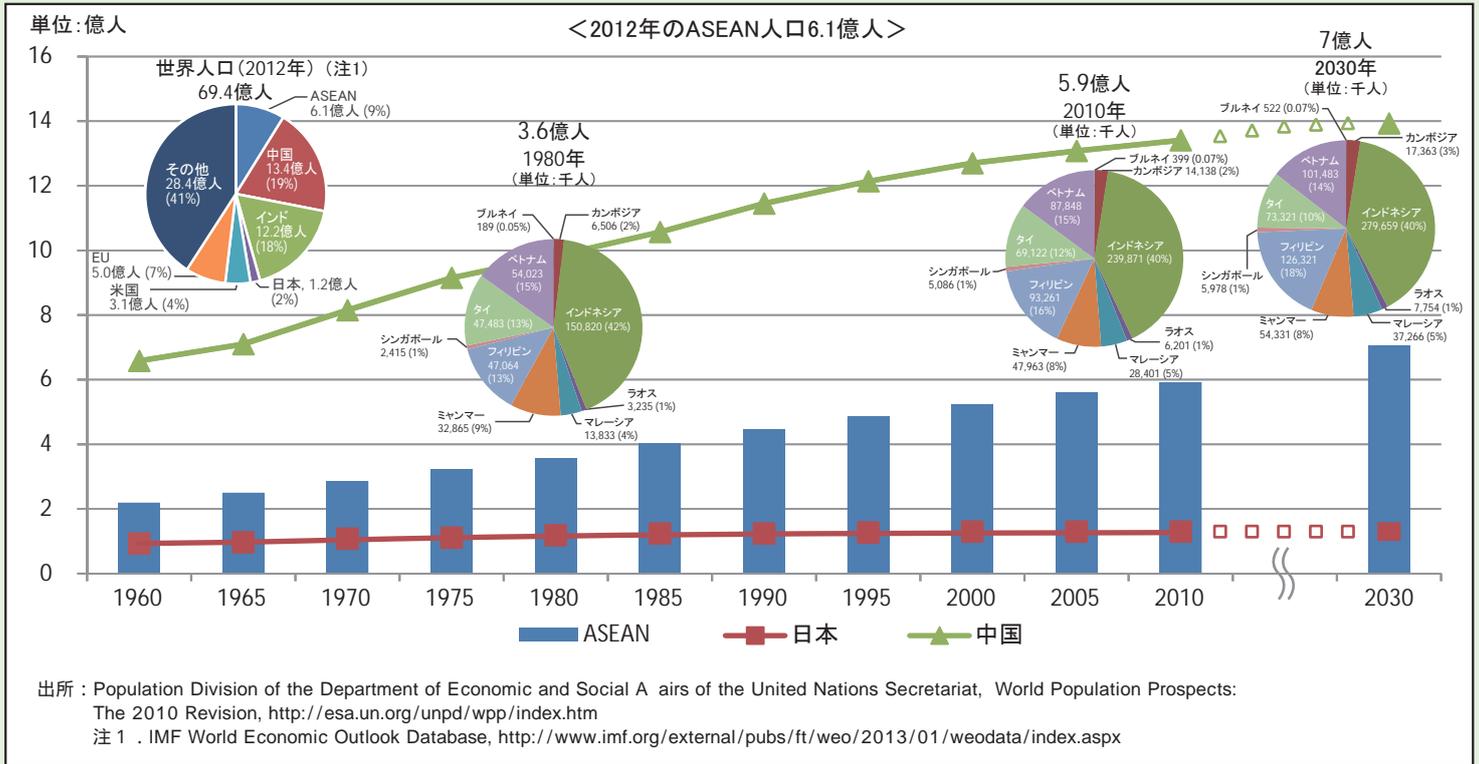
ベトナム社会主義共和国



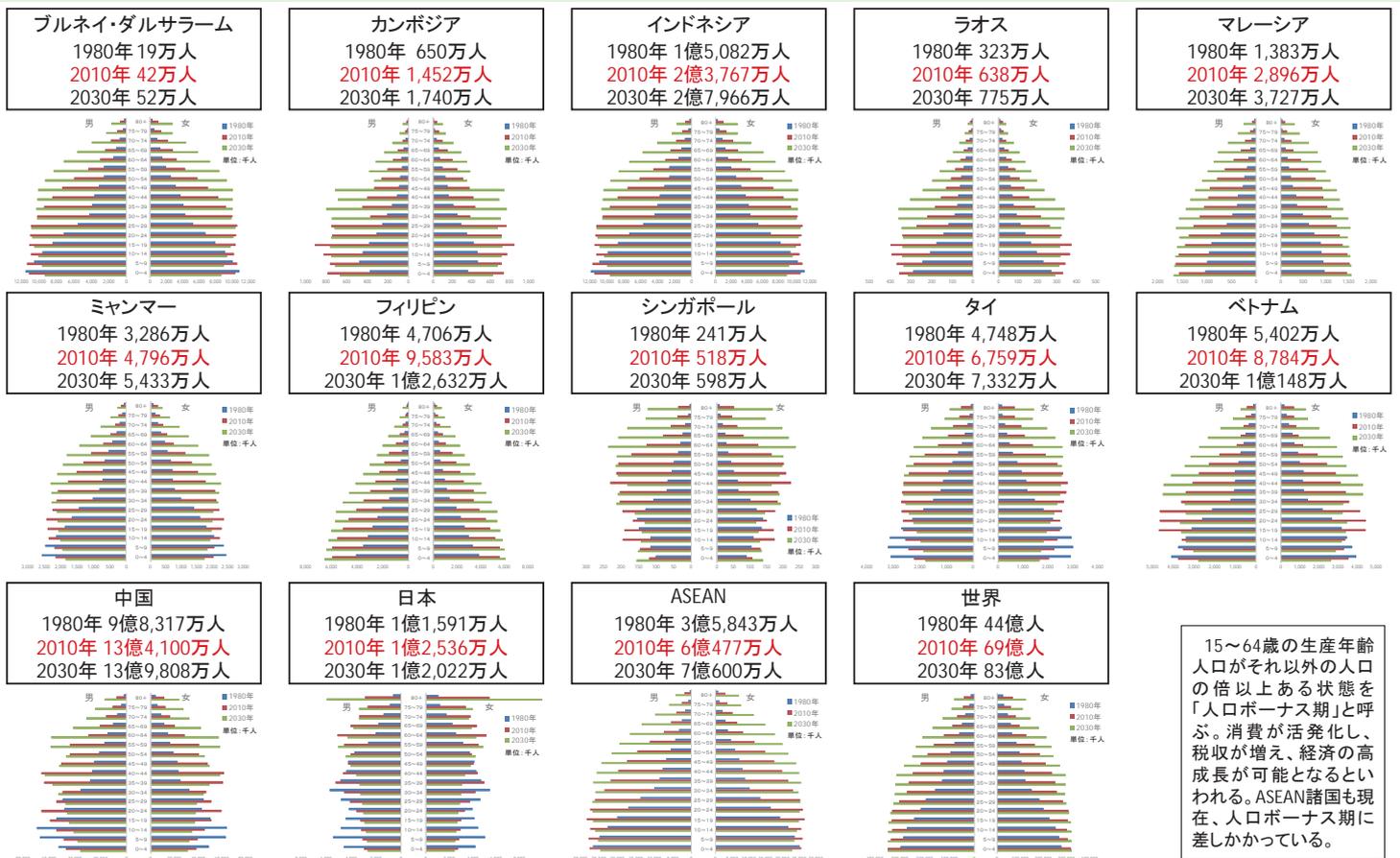
面積：331,690km²
 人口：約 9,147 万人（2013 年推定値）
 首都：ハノイ
 政体：社会主義共和制
 主な言語：ベトナム語
 主な宗教：仏教、カトリック
 通貨：ドン

1. 人口 ASEANの潜在性 ～成長を支える巨大な生産年齢人口～

ASEANの人口推移と2030年予測



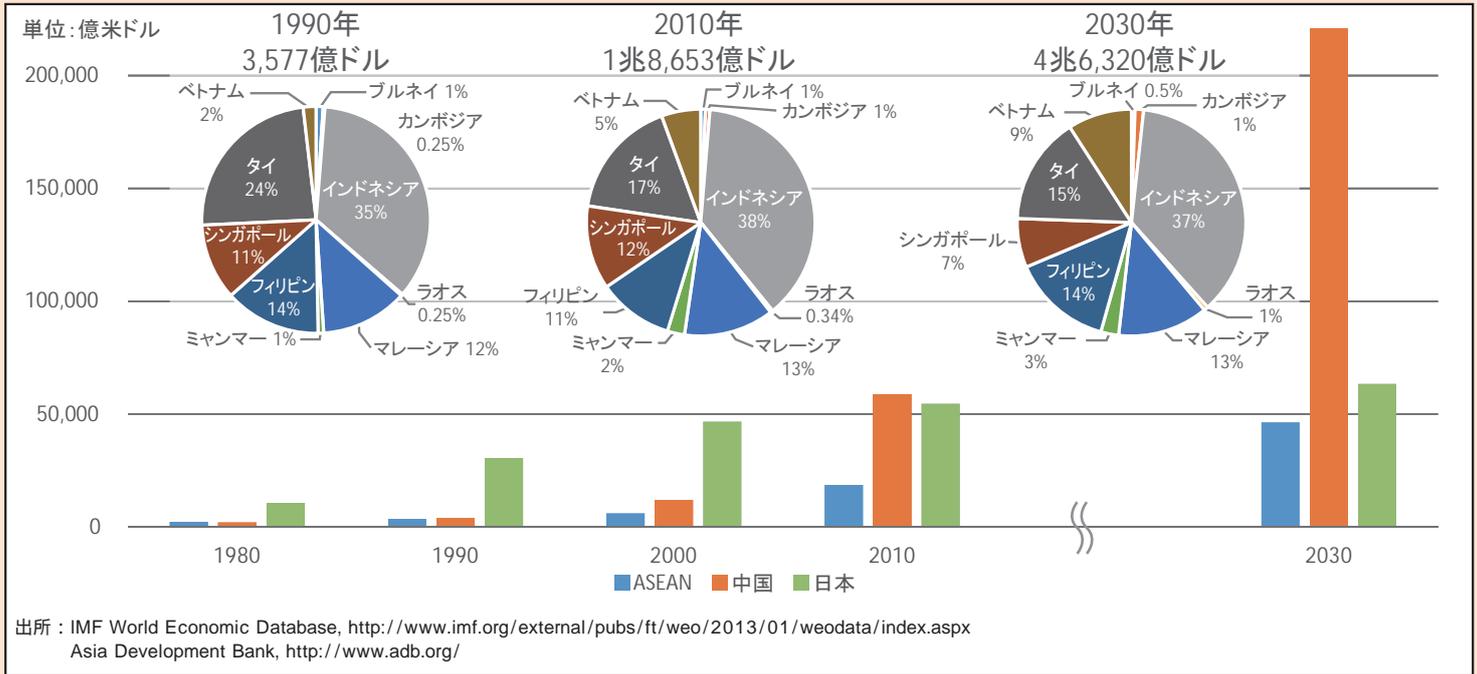
ASEAN各国他の人口推移 (1980年・2010年・2030年予測)



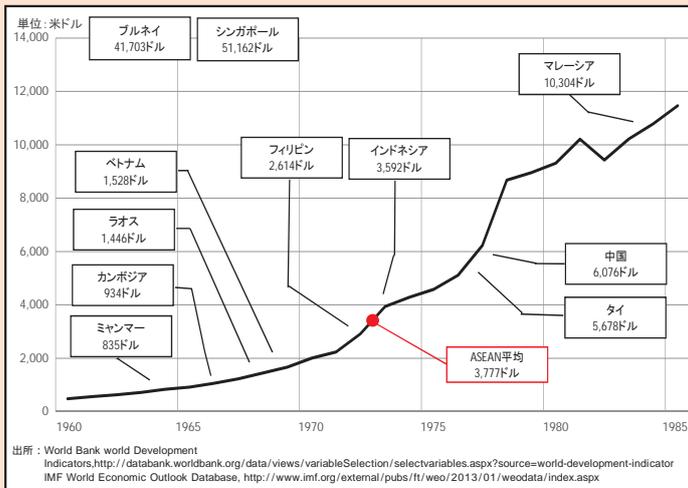
出所: Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2010 Revision, <http://esa.un.org/unpd/wpp/index.htm>
(注) 人口統計については、国連の推定値を用いているため、他機関・各国の公式発表の数値とは必ずしも一致しない。例えば、ミャンマーの場合、2010年の人口が同国政府の公式発表では、6,038万人となっている。

2. GDP 高い経済成長率 ～ 2030年には現在の約2.5倍の規模に拡大～

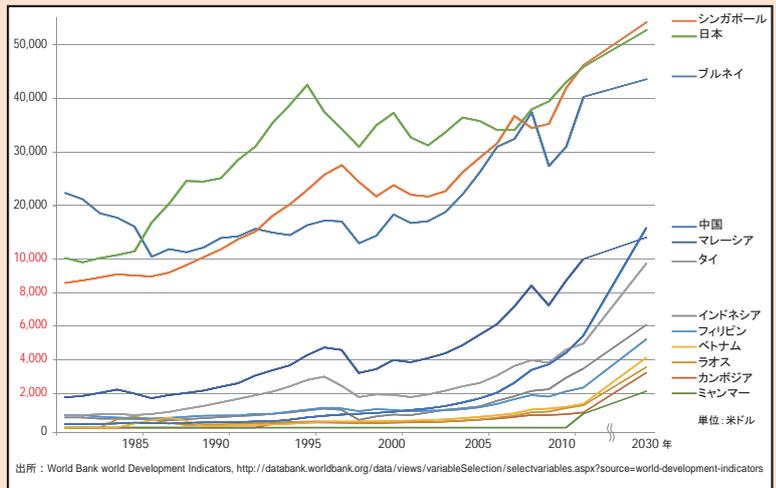
ASEANのGDP推移と2030年予測



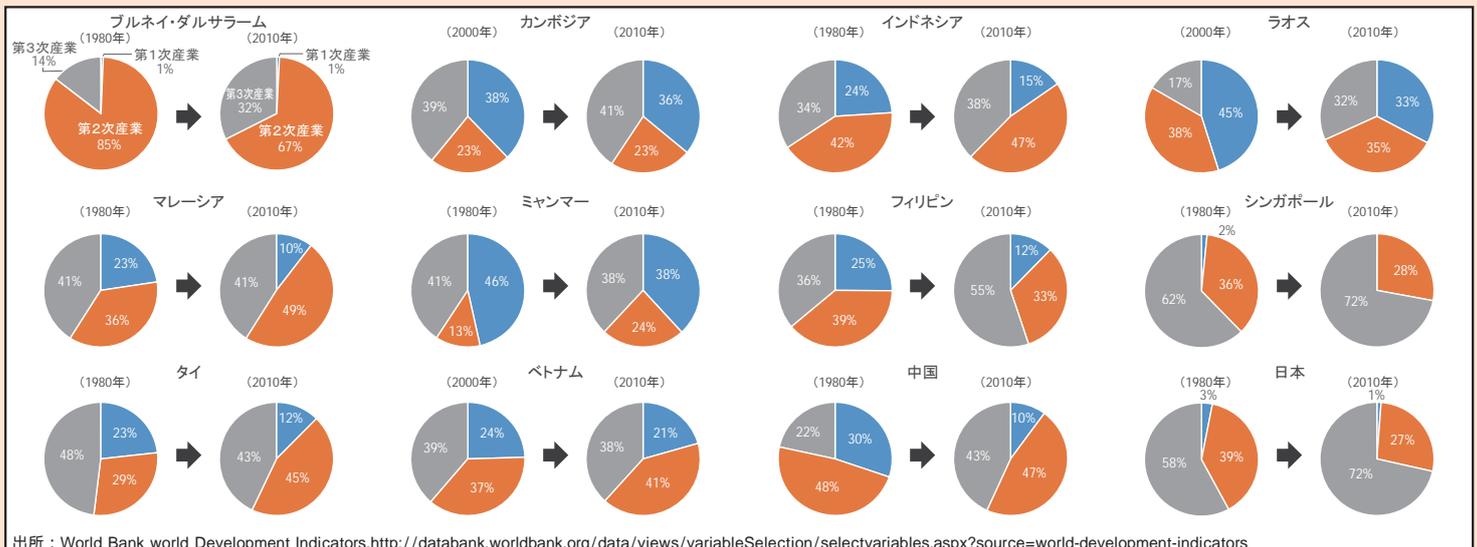
日本のGDP推移と各国の現在(2012年)のGDP



一人当たりのGDPの推移と予測



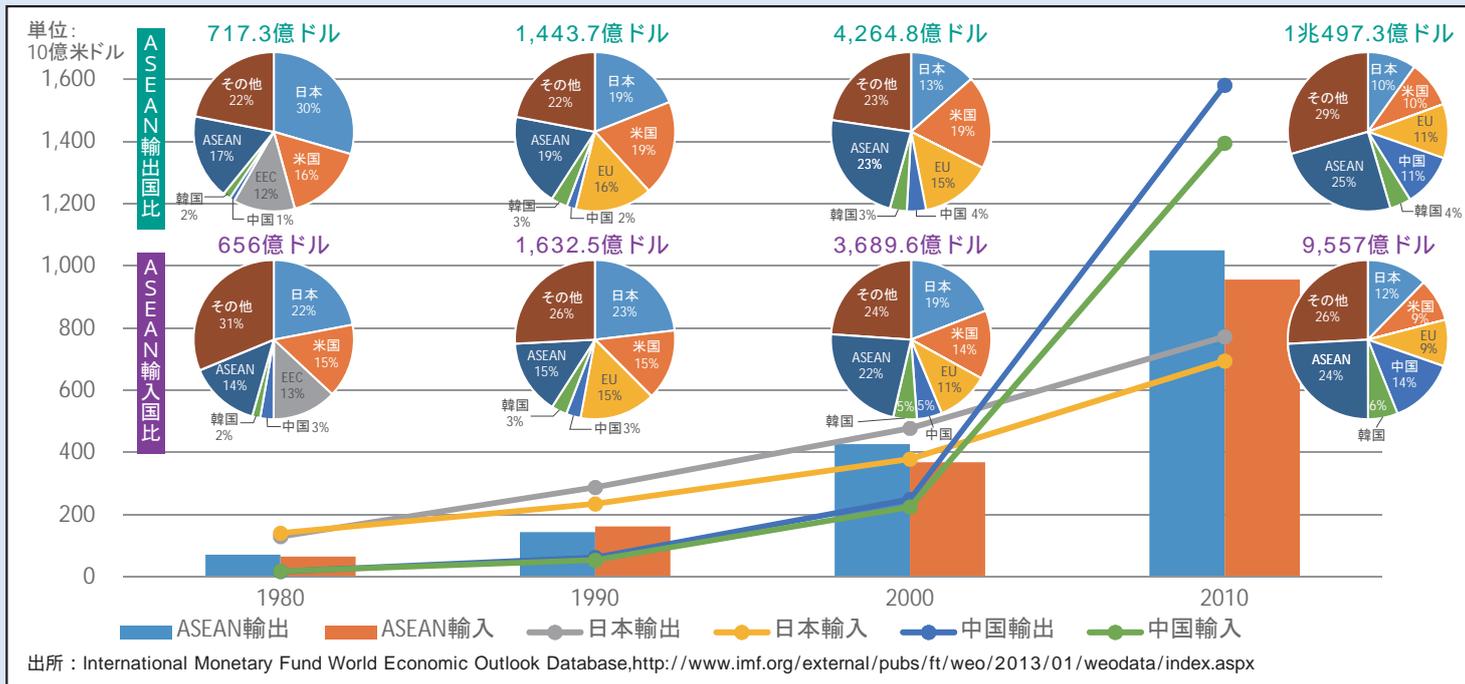
GDPの産業別構成比の推移



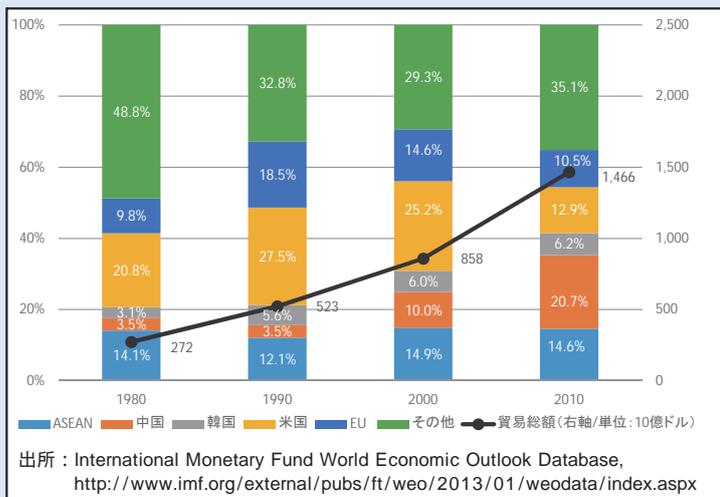
3. 貿易

ASEANの貿易額は30年で約15倍に拡大

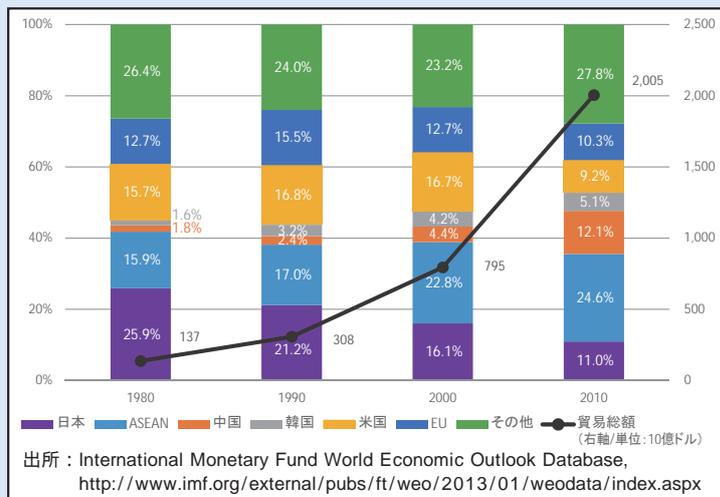
ASEANの貿易額・相手国/地域の推移



日本の主要貿易相手国・地域



ASEANの主要貿易相手国・地域



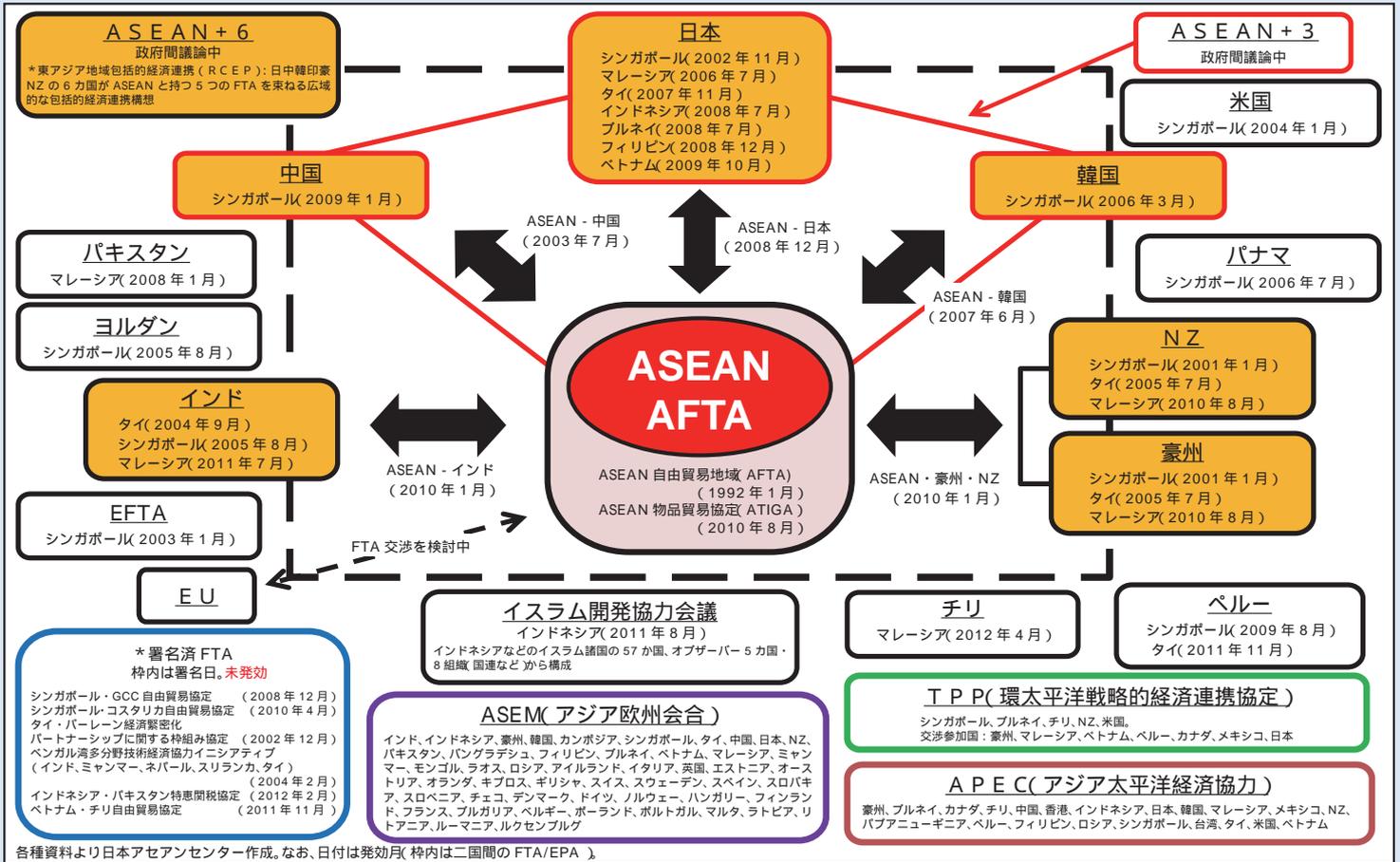
ASEAN域内貿易のマトリックス(2000年・2010年)

単位: 100万米ドル

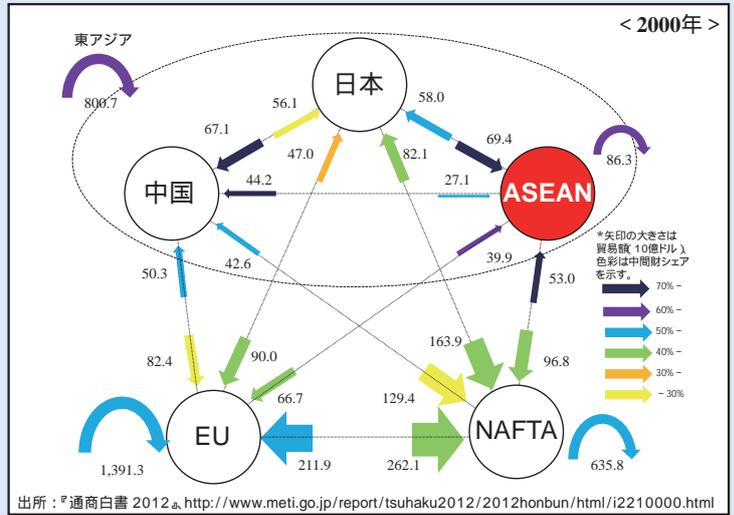
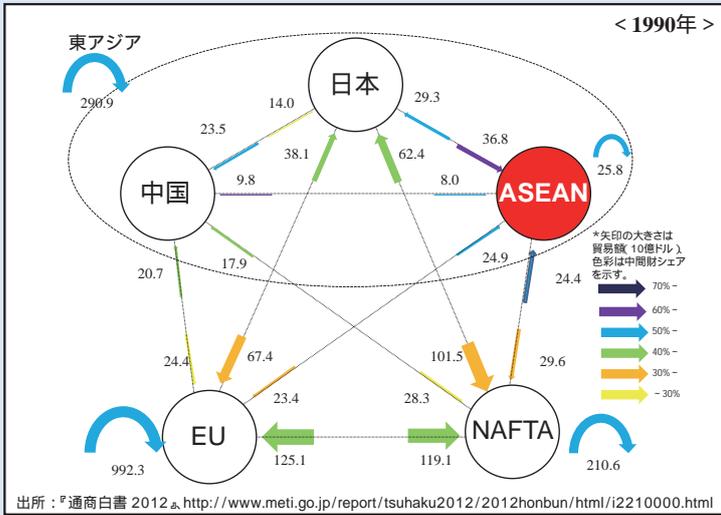
輸入国		輸出国										
輸出国	年	タイ	マレーシア	シンガポール	インドネシア	フィリピン	ブルネイ	ベトナム	ミャンマー	カンボジア	ラオス	ASEAN
タイ	2000年		2,813	5,997	1,338	1,082	40	838	504	347	381	13,340
	2010年		10,569	9,019	7,347	4,888	129	5,846	2,073	2,340	2,135	44,346
マレーシア	2000年	3,550		18,050	1,707	1,727	254	475	231	71	2	26,068
	2010年	10,587		26,544	5,616	3,106	451	3,548	366	198	14	50,430
シンガポール	2000年	5,872	25,042		3,410	3,387	486	2,091	436	426	30	41,179
	2010年	12,702	41,913		33,091	7,174	946	7,387	1,156	2,215	23	106,606
インドネシア	2000年	1,026	1,972	6,562		820	26	361	65	52	1	10,884
	2010年	4,567	9,362	13,723		3,181	61	1,946	284	218	6	33,348
フィリピン	2000年	1,206	1,377	3,124	183		4	75	10	2	0	5,983
	2010年	1,784	1,397	7,331	449		6	571	11	9	0	11,558
ブルネイ	2000年	461	7	239	25	0		0	0	0	0	732
	2010年	90	43	118	606	2		9	0	0	0	869
ベトナム	2000年	372	414	886	249	478	2		6	142	71	2,619
	2010年	1,183	2,093	2,121	1,433	1,706	14		50	1,552	198	10,351
ミャンマー	2000年	233	63	100	20	2	0	3		0	0	422
	2010年	2,569	207	75	29	11	0	93		0	0	3,007
カンボジア	2000年	23	10	18	2	1	0	19	0		3	76
	2010年	149	19	429	4	3	3	96	0		1	705
ラオス	2000年	69	0	1	1	0	0	96	0	0		167
	2010年	690	2	3	1	0	0	265	0	1		961
ASEAN	2000年	12,813	31,698	34,977	6,936	7,497	811	3,958	1,252	1,041	487	101,470
	2010年	34,341	65,606	59,364	48,576	20,071	1,609	19,762	3,940	6,533	2,377	262,180

出所: JETRO「ASEAN域内貿易のマトリックス」, <http://www.jetro.go.jp/world/asia/asean/>

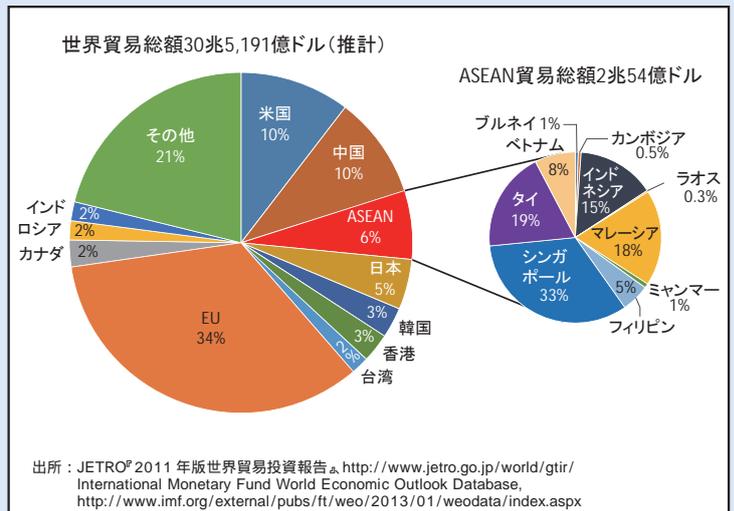
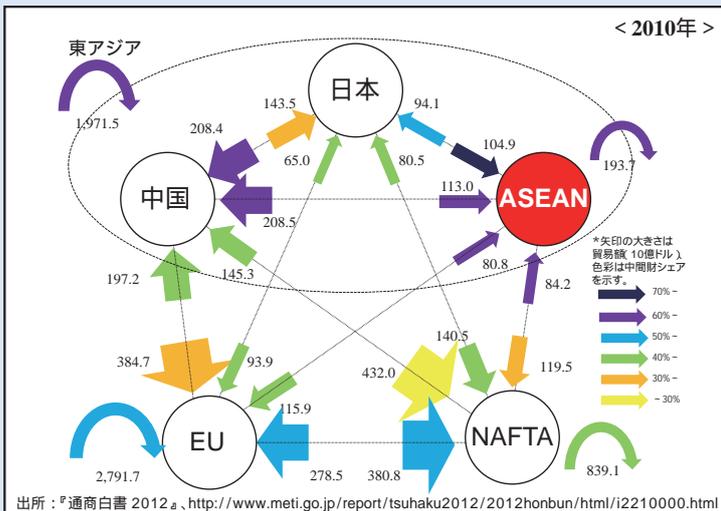
ASEANを中心とした(2国間・地域)FTA・EPAネットワーク



世界の主要地域間の貿易(中間財シェアを色別に表示)フロー図(1990年・2000年・2010年)



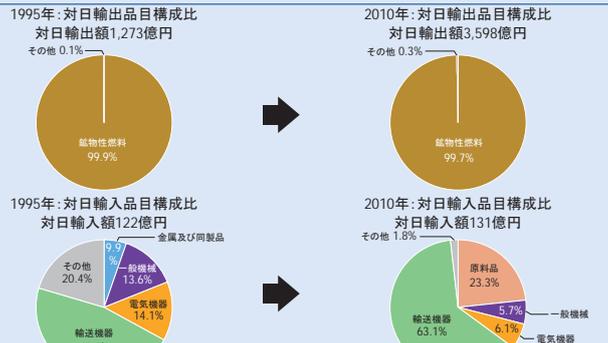
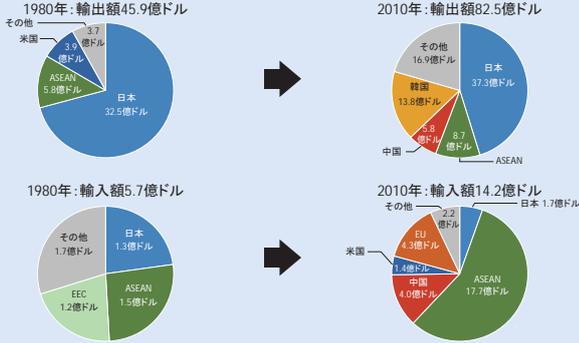
世界貿易に占めるASEANのシェア(2010年)



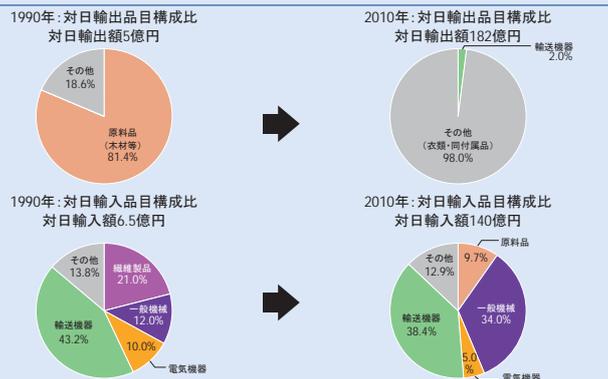
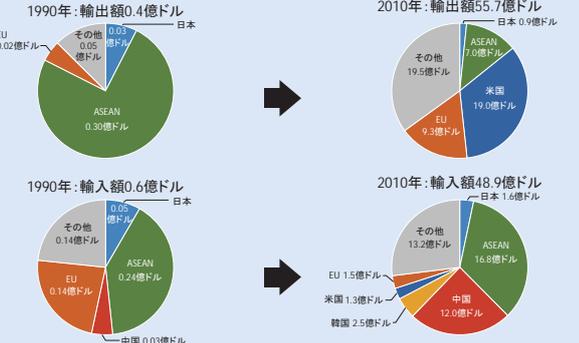
ASEAN各国の貿易の変化（国別、対日）

- 「国別」凡例
 ASEAN 日本 米国 中国 韓国 EU その他
 EEC
- 「対日」凡例
 鉱物性燃料 原料別製品 化学製品 食品 非金属鉱物製品 原料品 機械機器／一般機械 金属及び同製品
 電気機器 輸送機器 その他

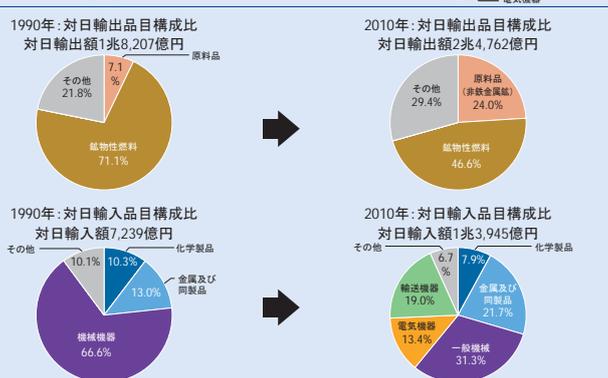
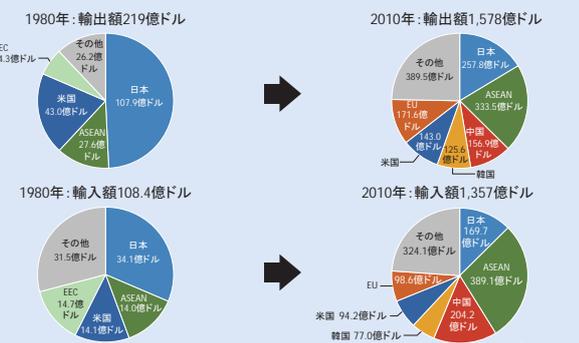
ブルネイ・ダルサラーム



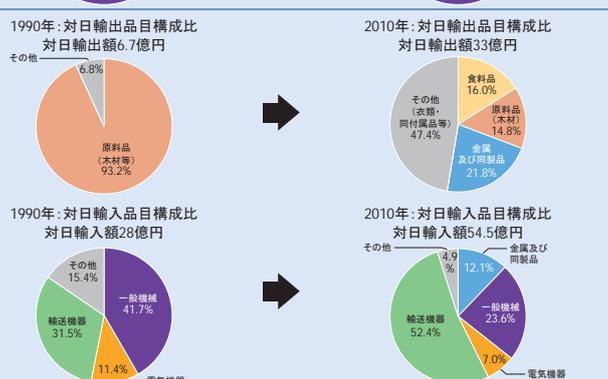
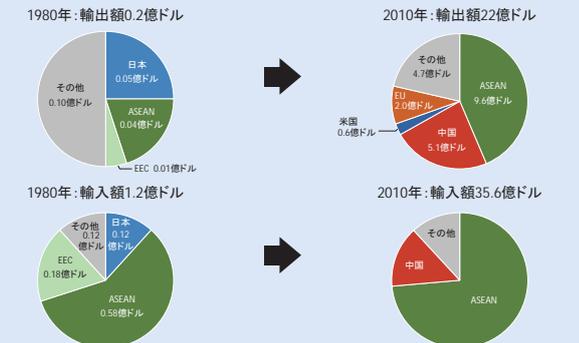
カンボジア



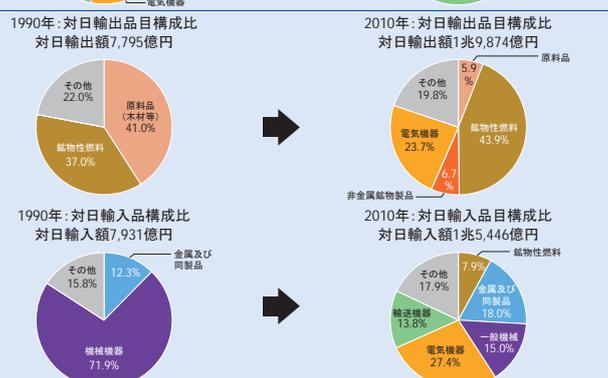
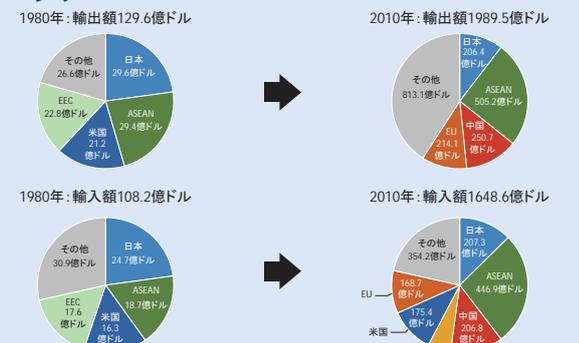
インドネシア



ラオス



マレーシア



ミャンマー

1980年：輸出額4.2億ドル



1980年：輸入額7.9億ドル



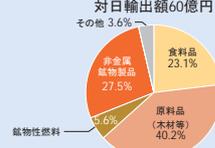
2010年：輸出額65億ドル



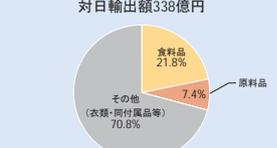
2010年：輸入額99.5億ドル



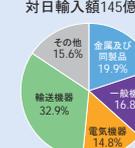
1990年：対日輸出品目構成比



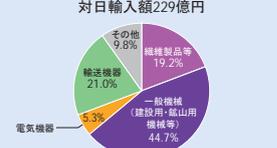
2010年：対日輸出品目構成比



1990年：対日輸入品目構成比



2010年：対日輸入品目構成比



フィリピン

1980年：輸出額57.9億ドル



1980年：輸入額83億ドル



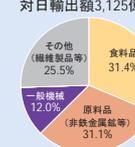
2010年：輸出額516.4億ドル



2010年：輸入額547.2億ドル



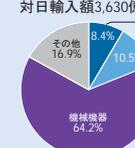
1990年：対日輸出品目構成比



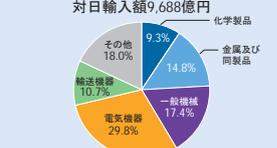
2010年：対日輸出品目構成比



1990年：対日輸入品目構成比



2010年：対日輸入品目構成比



シンガポール

1980年：輸出額194億ドル



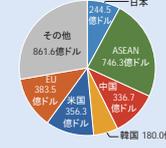
1980年：輸入額240億ドル



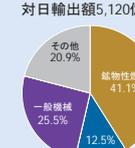
2010年：輸出額3,536億ドル



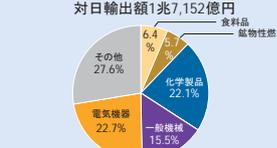
2010年：輸入額3,109億ドル



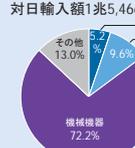
1990年：対日輸出品目構成比



2010年：対日輸出品目構成比



1990年：対日輸入品目構成比



2010年：対日輸入品目構成比



タイ

1980年：輸出額65億ドル



1980年：輸入額92億ドル



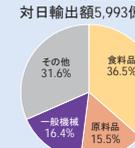
2010年：輸出額1953.6億ドル



2010年：輸入額1846.3億ドル



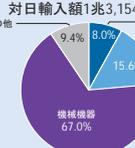
1990年：対日輸出品目構成比



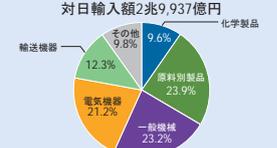
2010年：対日輸出品目構成比



1990年：対日輸入品目構成比



2010年：対日輸入品目構成比



ベトナム

1980年：輸出額1.7億ドル



1980年：輸入額9.4億ドル



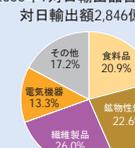
2010年：輸出額698.2億ドル



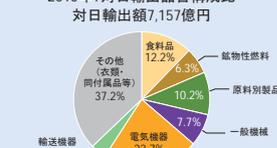
2010年：輸入額833.7億ドル



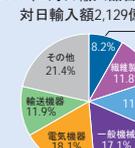
2000年：対日輸出品目構成比



2010年：対日輸出品目構成比



2000年：対日輸入品目構成比



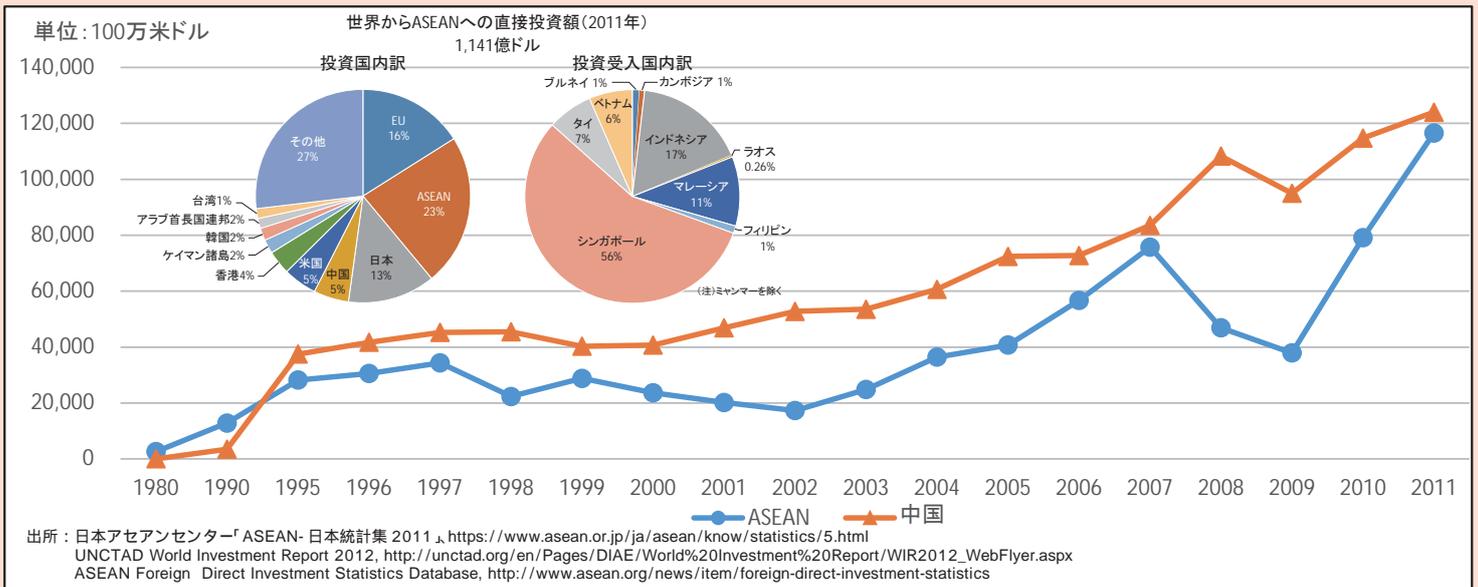
2010年：対日輸入品目構成比



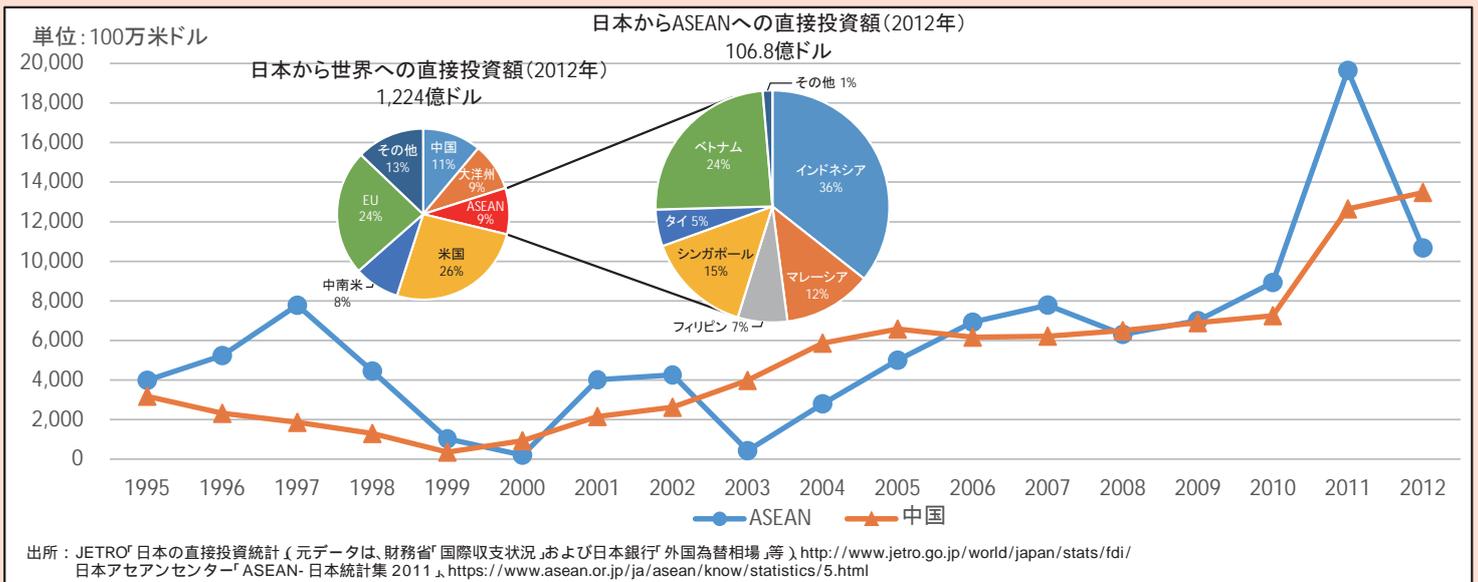
出所：Supplement to the World Trade Annual Volume, Statistical Office of the United Nations (各年版)
 日本アセアンセンター「ASEAN-日本統計集」各年版(元データは、IMF Direction of Trade Statistics Year book (各年版)、日本関税協会「外国貿易概況」平成22年12月号他)、<https://www.asean.or.jp/ja/asean/know/statistics>
 注記：比較を目的としているため、基本的に1980年、1990年、2000年、2001年、2010年データを使用。但し、データ入手ができなかった国に関しては、個別に定めた。

4. 投資 加速するASEANへの投資

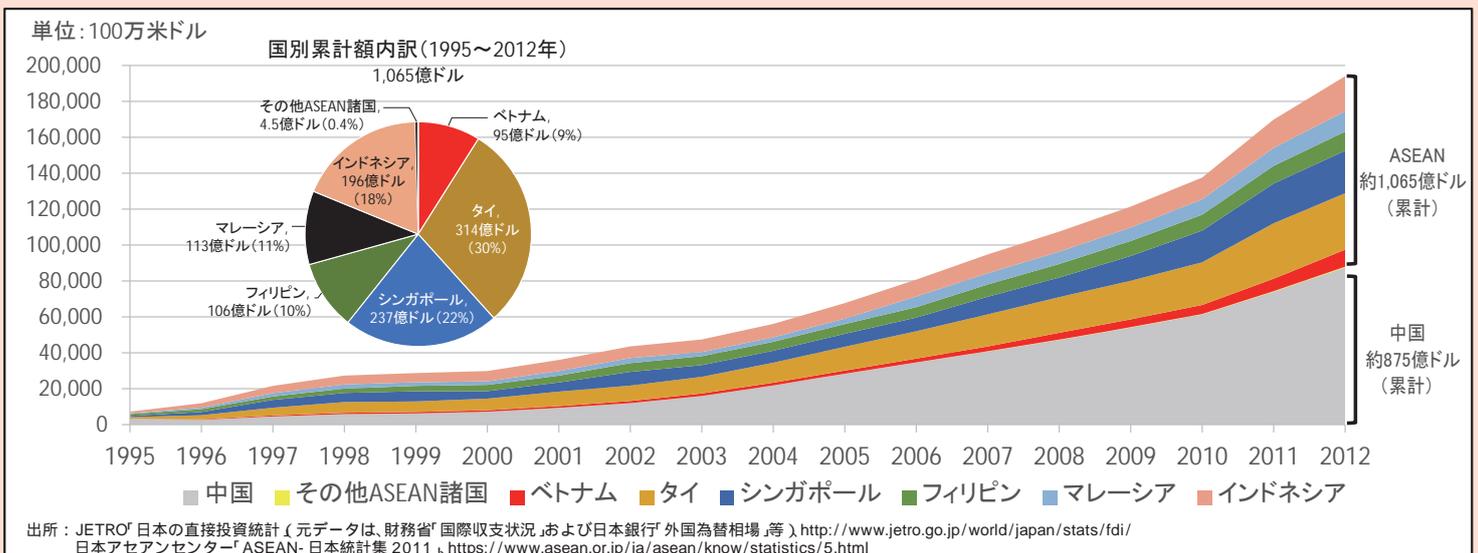
世界からASEAN・中国への外国直接投資額の推移(フロー)



日本からASEAN・中国への外国直接投資額の推移(フロー)

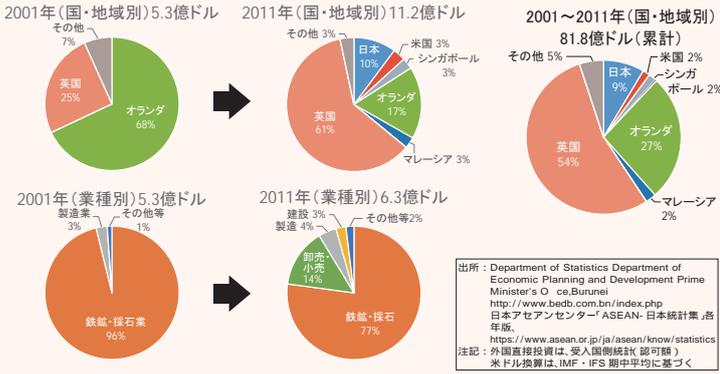


日本からASEAN・中国への外国直接投資累積額

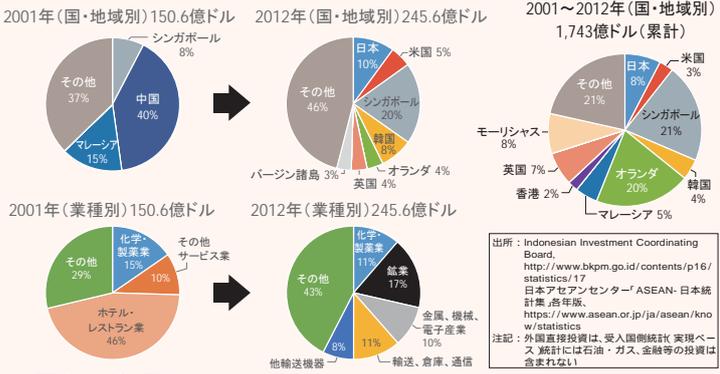


各国政府による直接投資認可(額・内訳)(注:各国認可の対象・基準が異なるため、各国の横並び比較は不適切。また、認可額がすべて実行されているとは限らない)

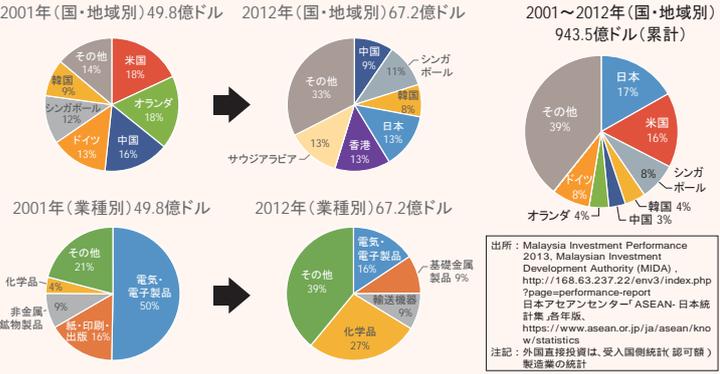
ブルネイ・ダルサラーム



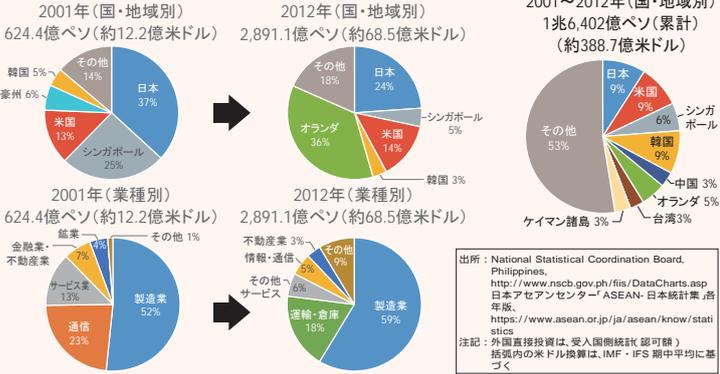
インドネシア



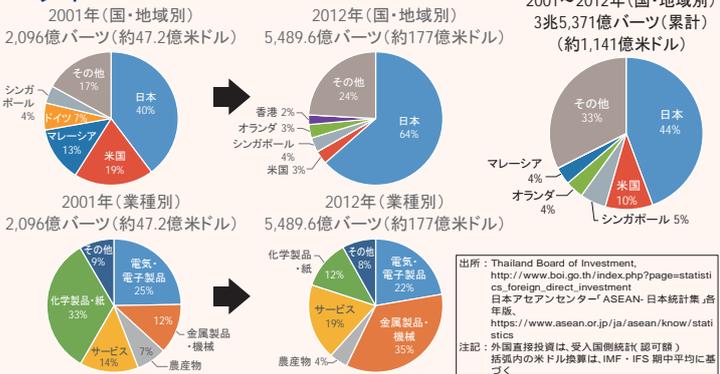
マレーシア



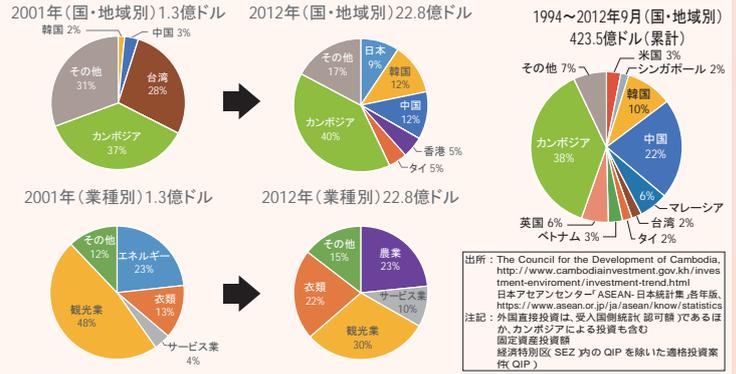
フィリピン



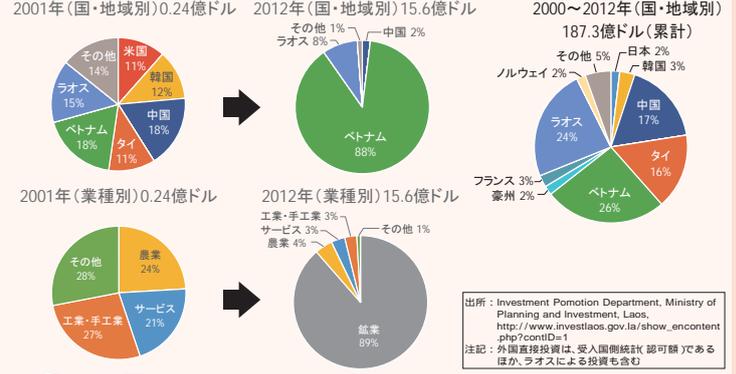
タイ



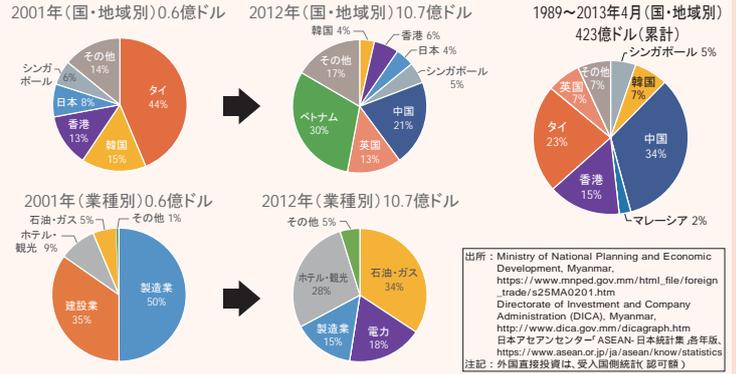
カンボジア



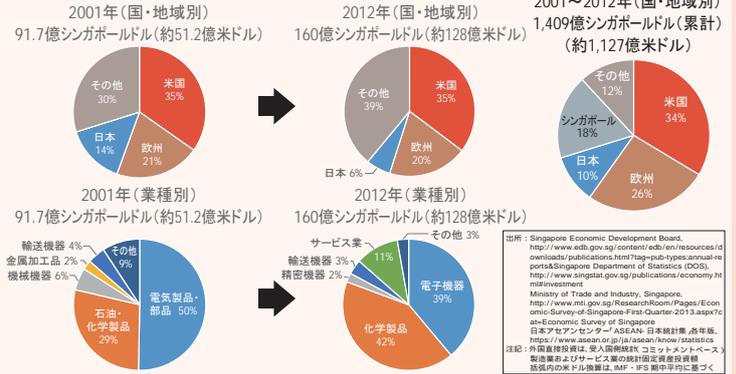
ラオス



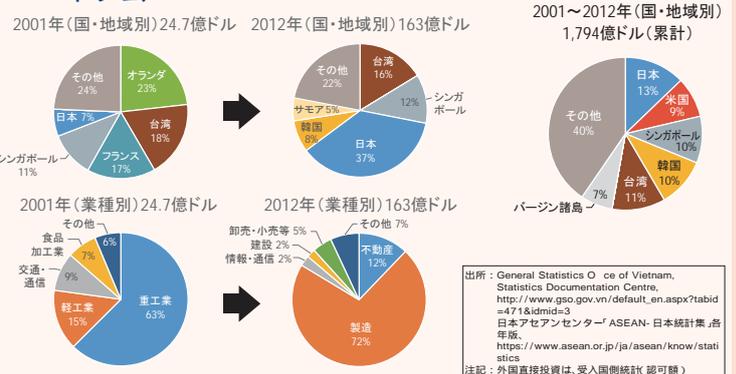
ミャンマー



シンガポール



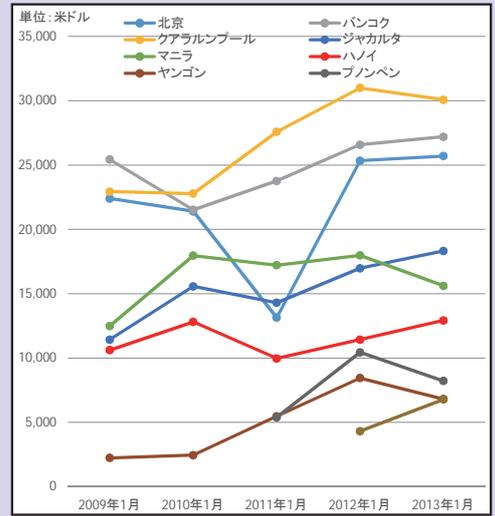
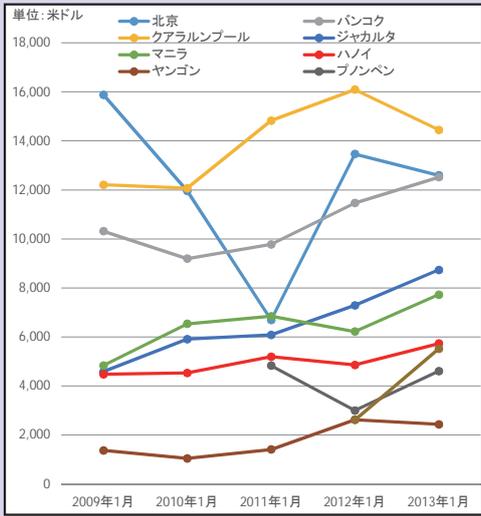
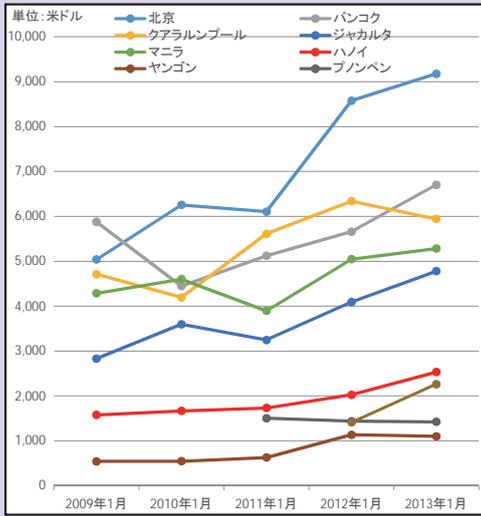
ベトナム



ワーカー(一般工職)年間実負担額の推移

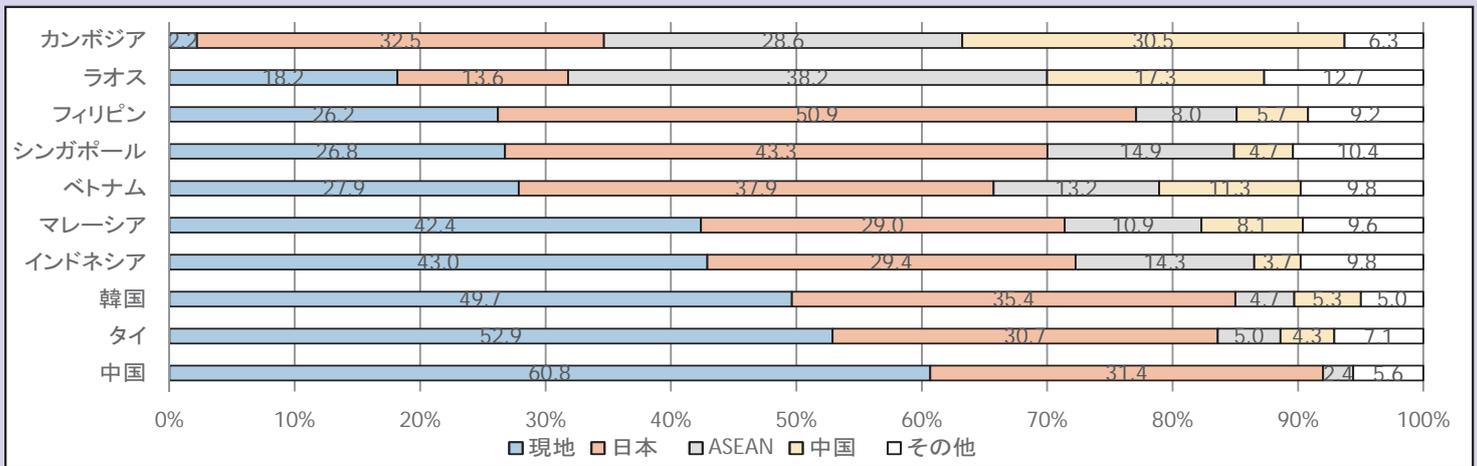
エンジニア(中堅技術者)年間実負担額の推移

中間管理職(課長クラス)年間実負担額の推移

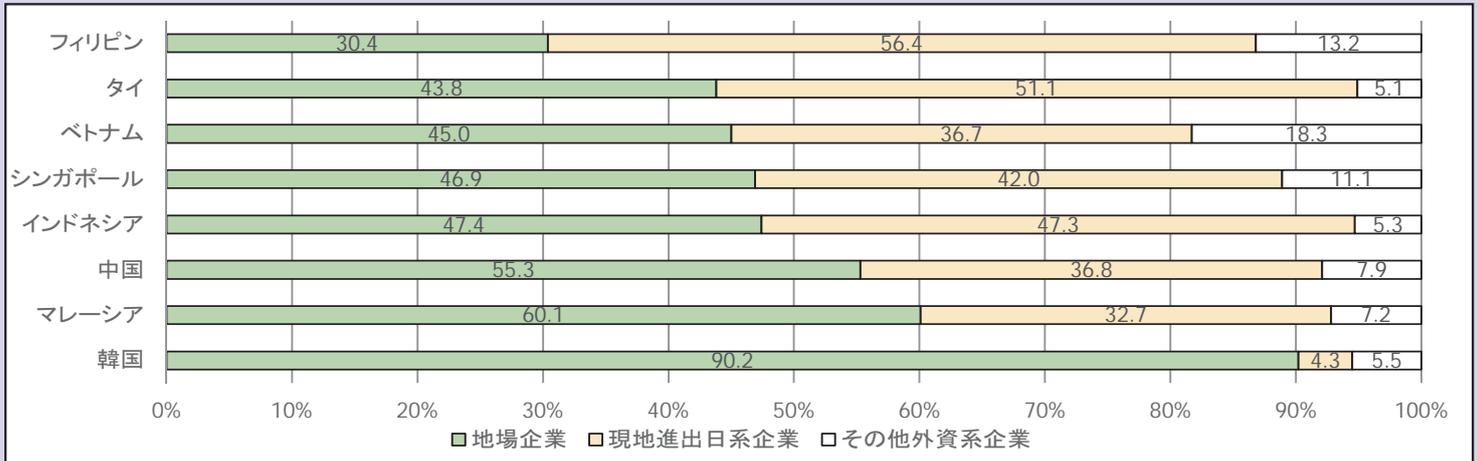


原材料・部品調達率の比較(2012年)

出所: JETRO「第19~23回アジア・オセアニア主要都市・地域の投資関連コスト比較」を一部加工。なお、年間実負担額には、基本給、諸手当、社会保険、残業代、賞与などを含む。
<http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001125>

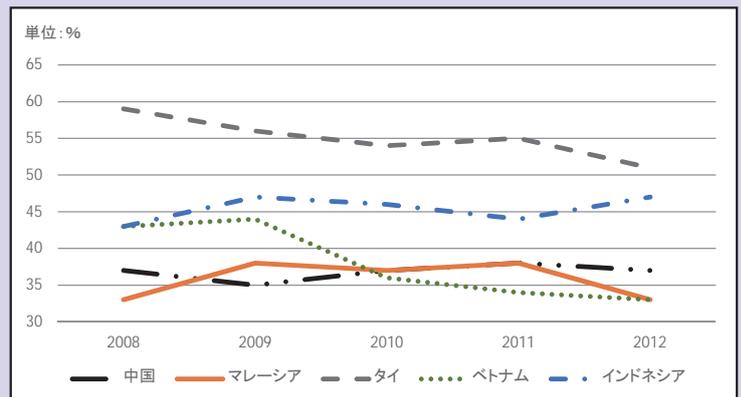
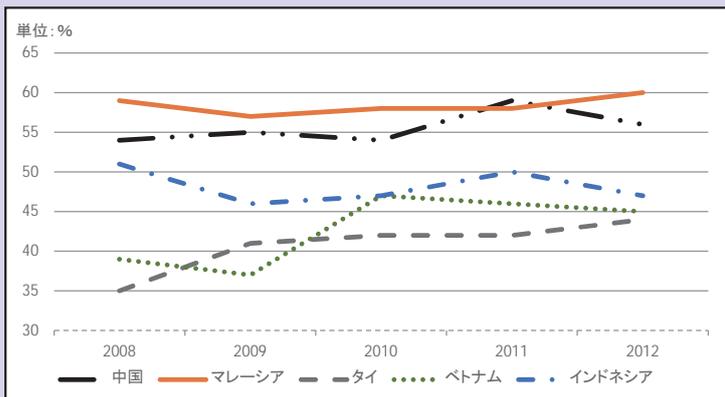


原材料・部品の現地調達先の内訳(2012年) の青色部分の内訳



原材料・部品の現地調達先の内訳推移(地場企業) の緑部分の推移

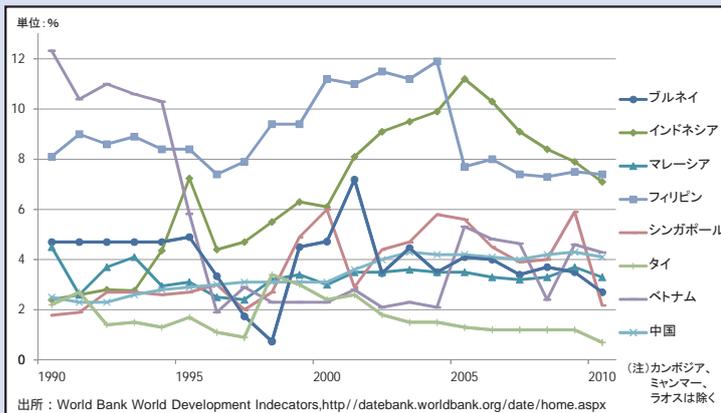
原材料・部品の現地調達先の内訳推移(進出日系企業) の黄色部分の推移



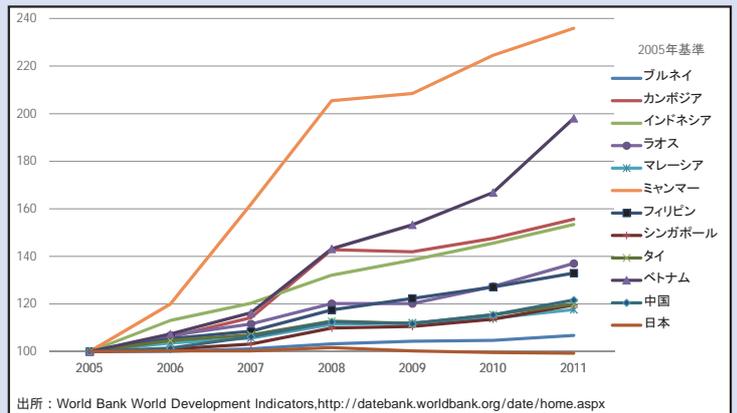
出所: JETRO「在アジア・オセアニア日系企業活動実態調査(2012年度)」を一部加工: 進出日系企業からの回答による <http://www.jetro.go.jp/world/asia/reports/07001149>

6. 各種経済指標

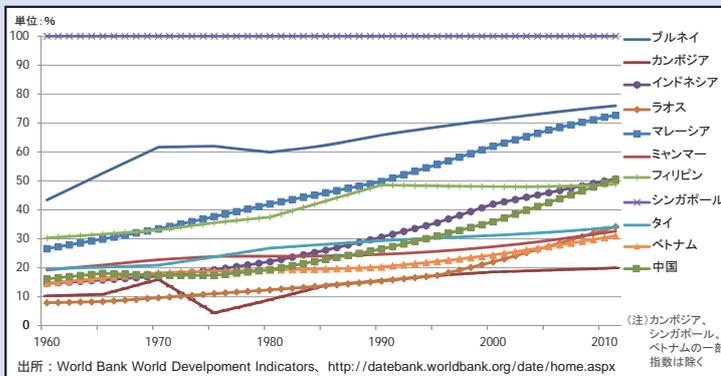
失業率



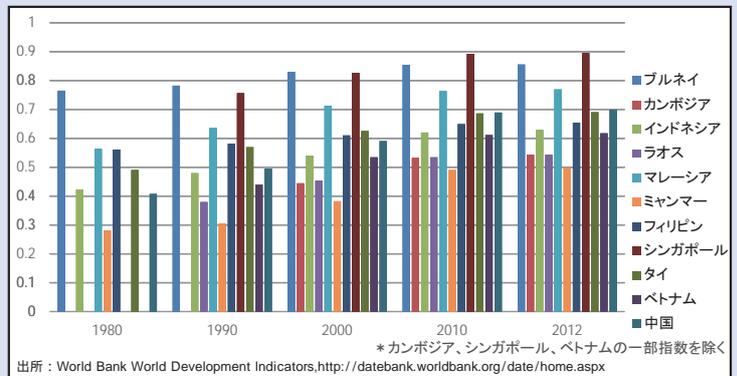
消費者物価指数 (CPI)



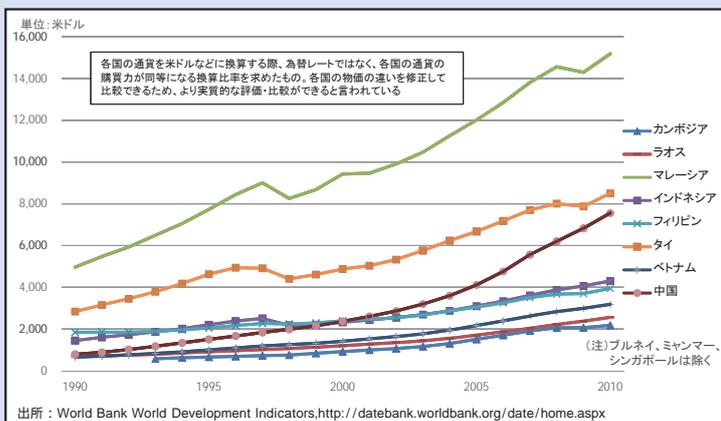
都市化率



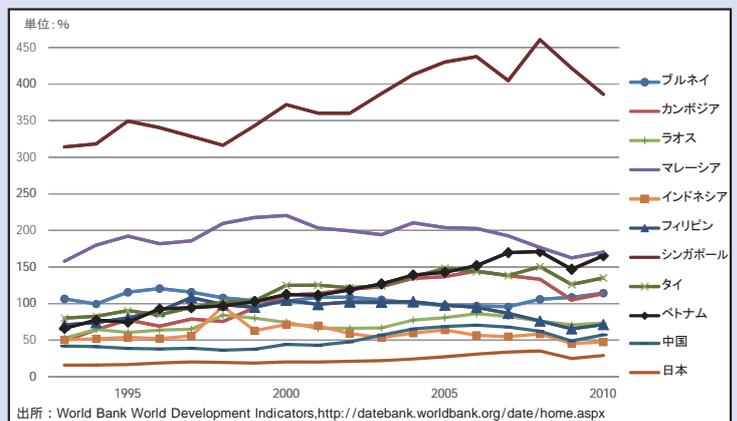
人間開発指数 (HDI)



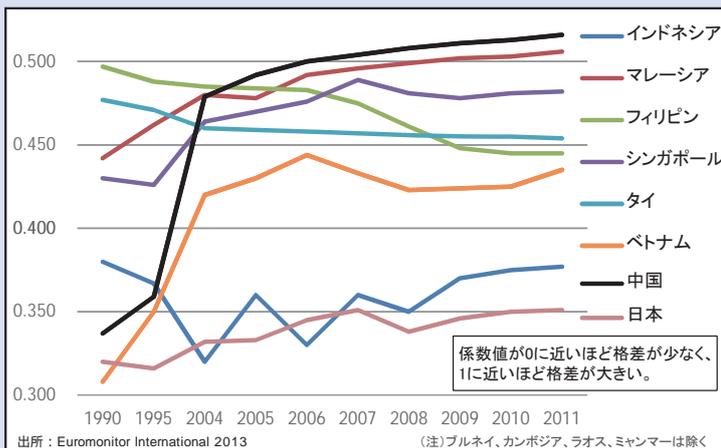
一人当り購買力平価 (PPP)



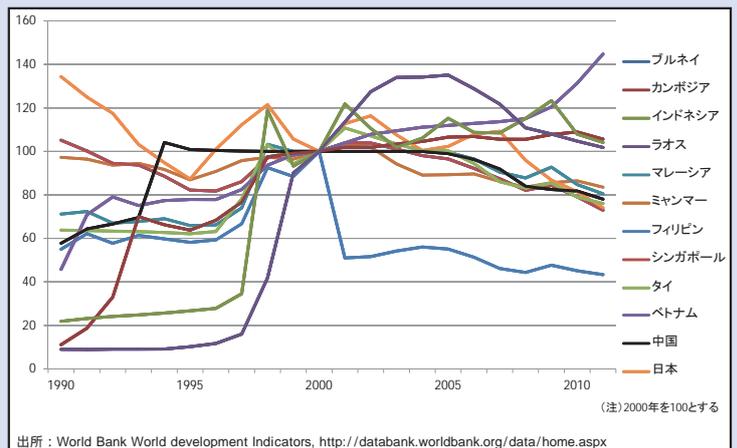
貿易依存度 (貿易総額の対GDP比)



GINI係数

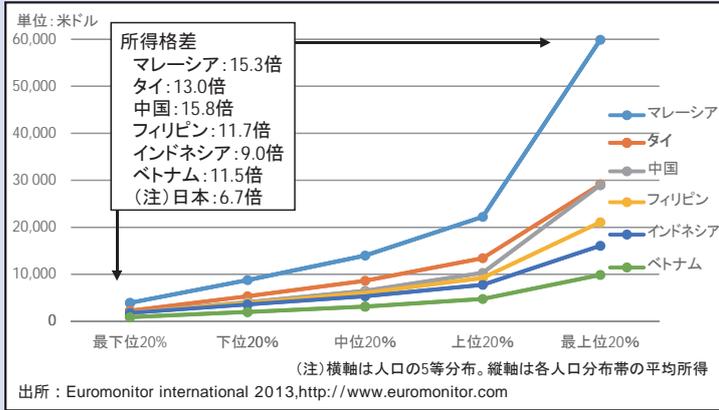


為替レートの推移 (2000年 = 100)

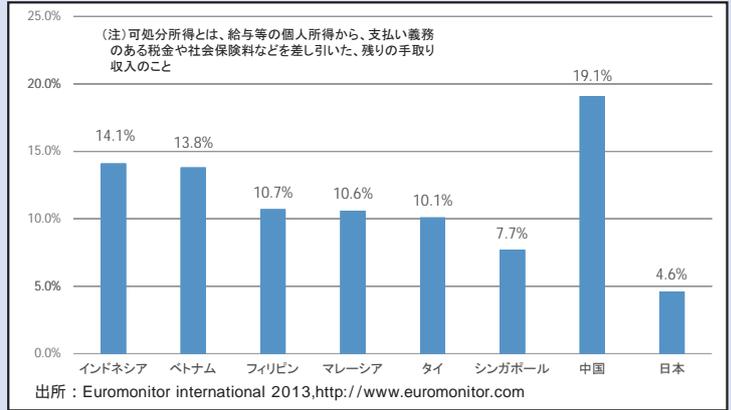


厚みを増すASEANの中間層 ~ 拡大を続ける消費市場 ~

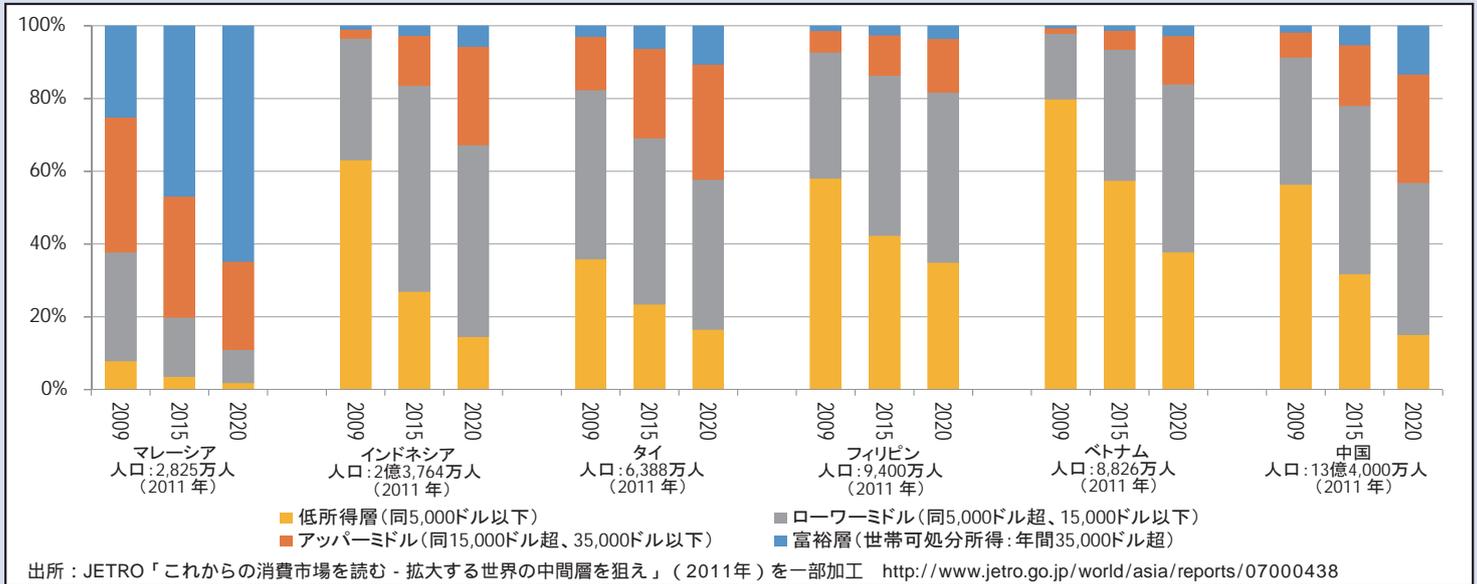
平均世帯可処分所得の格差(2011年)



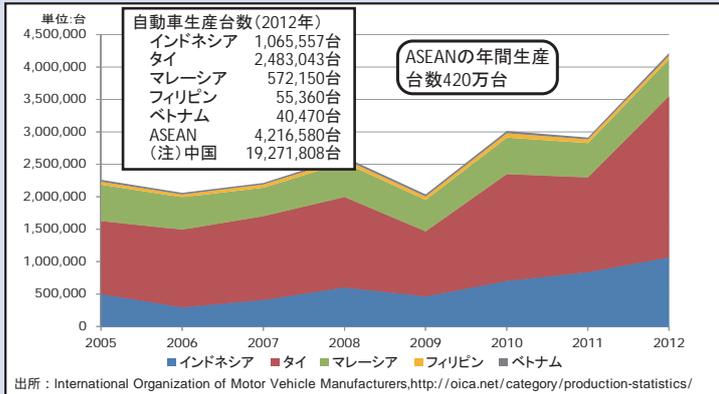
平均世帯可処分所得の年平均成長率(2005~11年)



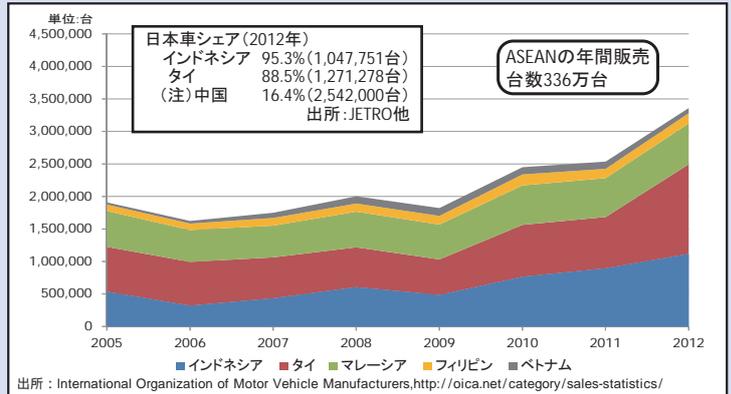
世帯可処分所得の予測(2009年・2015年・2020年)



ASEAN主要国の自動車生産台数



ASEAN主要国の自動車販売台数

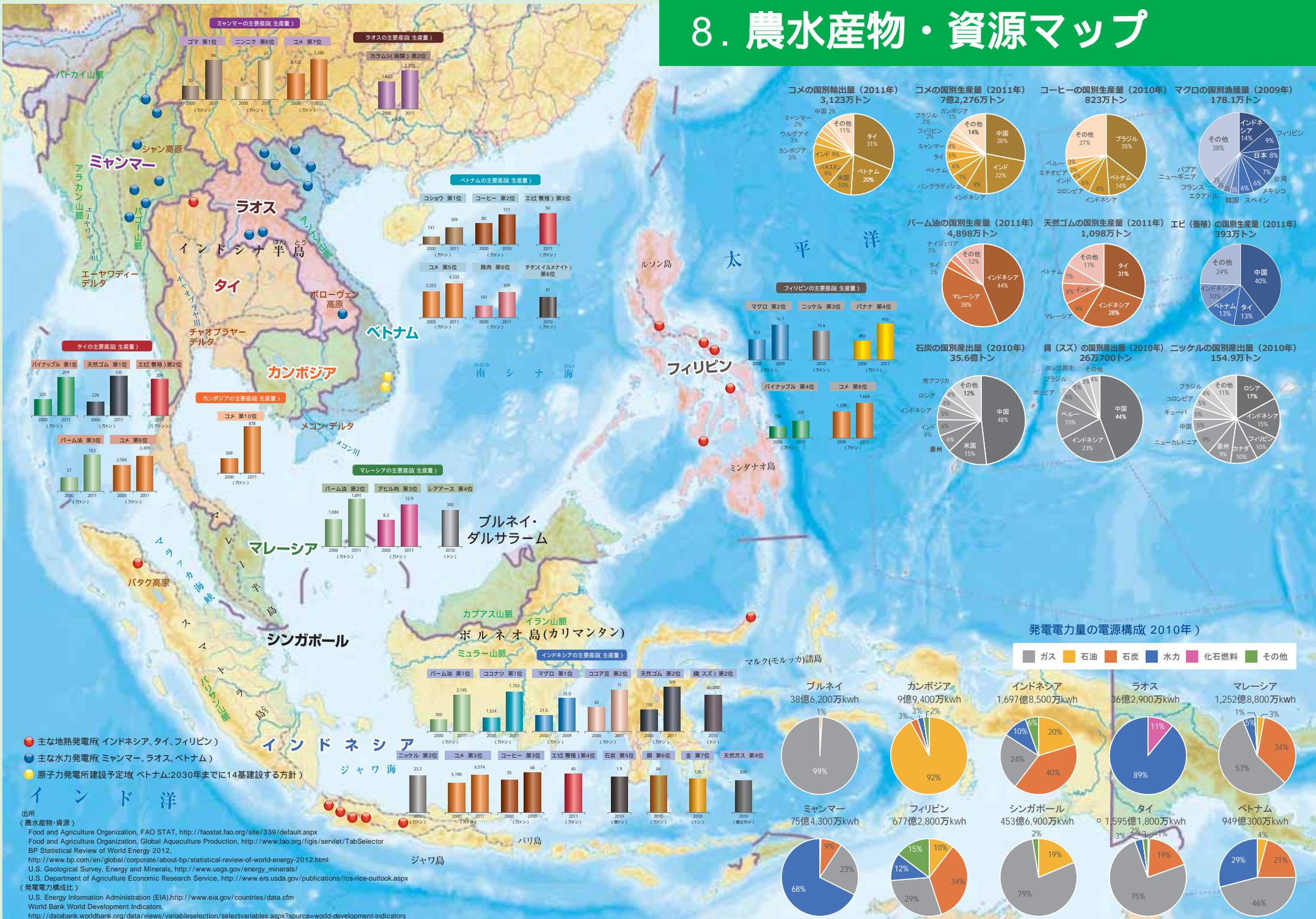


世帯あたり耐久消費財普及率(2011年)

	冷蔵庫	洗濯機	エアコン	カラーTV	電子レンジ	掃除機	パソコン	電話	乗用車	二輪車
マレーシア	86.3%	93.4%	27.9%	98.6%	39.6%	74.9%	47.2%	32.0%	62.7%	52.6%
タイ	89.2%	54.4%	14.3%	92.9%	62.9%	13.4%	27.2%	21.1%	14.3%	71.6%
インドネシア	29.7%	29.8%	7.3%	70.9%	2.8%	36.8%	8.6%	29.7%	7.3%	10.0%
フィリピン	41.4%	32.1%	12.9%	72.9%	31.8%	41.2%	17.2%	11.6%	10.9%	31.2%
ベトナム	43.1%	17.7%	6.0%	93.6%	19.7%	33.7%	15.4%	71.8%	1.2%	76.6%
中国	73.5%	74.8%	58.0%	96.3%	32.2%	32.1%	34.6%	82.8%	5.5%	40.9%
日本	98.8%	99.6%	88.2%	99.5%	97.6%	99.0%	87.7%	95.4%	87.0%	19.6%

出所: Euromonitor international 2013, <http://www.euromonitor.com>,

8. 農水産物・資源マップ



ASEANの世界遺産

ASEANには世界遺産に登録された素晴らしい遺跡や建造物、自然が数多くあります

9. 観光マップ

カンボジア

C-1 アンコール遺跡群
約400kmにわたり森林とともに遺跡群が点在しています。有名なアンコール・ワットをはじめ、アンコール・トムの「バヨ」など、無数のリリーフが施され、9世紀から15世紀までのクメール帝国のすばらしい遺跡を見ることが出来ます。日本を含め、各国の組織が、カンボジアのアンコール地域遺跡保護機構(APSARA)と協力して、遺跡の保存・研究・修復活動に取り組んでいます。

C-2 プレア・ヴィヒア寺院
カンボジア平野に広がる広大な台地の斜面に位置するプレア・ヴィヒア寺院は、ヒンドゥー教のシヴァ神に捧げられた寺院で、いくつもの祠堂が錯綜された路や階段で通っています。9世紀にヤショーヴァルマン1世により作られ、11世紀頃に改築されました。交通の要地必ずしも築かれていない場所に位置していることが幸いして、保存状態は良好です。その建造物は非常に優れたもので、周囲の自然、そして寺院としての宗教的目的に適合しています。また、レリーフにも素晴らしいものが見受けられます。

インドネシア

I-1 コモド国立公園
コモドの火山島には約5,700匹の巨大なトカゲ、コモドオオカガが生息しています。その独特の風貌と輝きからコモド・ドラゴンとも呼ばれるこのオオカガは、この島とインドネシアのいくつかの島にしか生息しておらず、進化論の研究者達の注目の的でもあります。乾燥した平野のあちこちにはイバラが生い茂り、真っ白な砂浜と珊瑚に波打つ青い海とのコントラストが印象的です。

I-2 ウジュンクローン国立公園
ジャワ島の最南西端、スダラ陸橋の上に位置するこの国立公園は、ウジュンクローン半島やその沖合いに浮かぶいくつかの島、またカラカパ自然区を擁します。すばらしい自然や、稀に珍らしい動物や植物など、極めて多様な地帯的特徴に加え、ジャワ平野最大の低地熱帯雨林が残っていて、ジャワサイなど絶滅の危機に瀕した動物が生息しています。

I-3 ボロブドゥール寺院遺跡群
8世紀から9世紀にかけてのこの寺院は、ジャワ中央にあり、大きく分けて3層から成ります。土台は5段の正方形がピラミッド状に重なり、その上に3段の円壇、最上層にひととき大きなストゥーパ(仏塔)があります。壁と柱には浅浮彫がほどこされ、その総面積は2,500㎡にもおよびます。また、円壇にある72個のストゥーパのそれぞれの中に仏像が納められています。

I-4 ブランバナン寺院遺跡群
10世紀に建造されたインドネシア最大の敷地面積を持つヒンドゥー教寺院群です。その中心にはシヴァ神、ヴィシュヌ神の巨大な彫像が並び、それぞれに神に仕える動物を祀った計6つの堂がそびえています。また周囲には叙事詩ラーマヤナのレリーフが見られます。

I-5 サンギラン初期人類遺跡
1936年から1941年にわたる発掘調査で、この土地で初めて人骨化石が出土し、その後約50のジャワ原人(ピテコロロブス・エルトゥス)などの骨が発見されました。約150万年前のものと考えられ、サンギラン人類の進化を知る上で非常に重要な遺跡です。

I-6 ロレンツ国立公園
東南アジア最大の保護区(面積250万ヘクタール)のなかに、万年雪を頂く山々や広大な低地帯地帯を含む熱帯海洋地区まで、連続したトランセクトが平野から山地で存在しています。二つの地域の衝突でできたこの地帯は、現在も進行する地形変動や水河作用による浸食など、地形学的特長に富んでいます。またニューギニアでの生物進化を証する化石や、この地域の固有種が多き、生物多様性の高さを裏付けるような化石もここで見つかっています。

I-7 スマトラの熱帯雨林
スマトラに広がる250万ヘクタールの熱帯雨林内には、グマン・ルサー、クリンチ、スプラ、ブネット、パルサン、スラタンと3つの国立公園があります。一帯に絶滅危惧種を含む多数の動植物が生息し、そのうちのいくつかはスマトラ島特有のもので、鳥の進化を生物地理学的に裏付ける場所ともいえます。

I-8 バリ島の文化的景観：トリヒタナナの精神を象徴するサブバックの水利システム
トリヒタカラヤ(Tr. Hita Karaya)とトリヒタ・ヒンブー教を表現したバリ島伝統的水利システム(サブバック(Subak))によって結ばれている、タンマン・アン寺院をもつ19,500ヘクタールに及び約150の村田地域。
パトゥル湖、ウラン・ダヌ、パトゥル寺院
ペカサン川流域のサブバック(稲田)の景観
タマン・フオン寺院
パトゥル川は、水害や渇きに備えるため分水分け型サブバックシステムで9世紀から継承されてきました。中でも18世紀王家の寺院タンマン・アン寺院の善報は、最も大規模かつ印象的な景観です。この「サブバック/Subak」は「Tr. Hita Karaya / トリヒタカラヤ」という(バ)・ヒンドゥー教の宗教的コンセプト、すなわち、神、人、自然の調和をもたらす手前儀を反映しています。このサブバックは2,000年、パトゥル川(バ)とイランの文化的交流の証でもあります。これらによって(バ)島の地域が形成されて、サブバックの主体的な平等な農耕管理は、人口密度が高くなった地域において、インドネシアの中で最も多くの(バ)の稲作農家が高いにもたらされています。

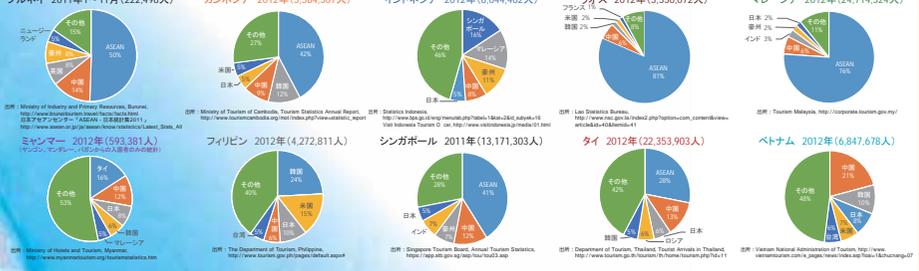
ラオス

L-1 ルアンパバーンの町
ラオスの伝統的な建物や都市の構造。19世紀から20世紀にかけての植民地時代の当局面より都市や都市構造がほぼ同一視されています。その独特な街並みは保存状態がよく、ユネスコが認めた「真なる二つの文化の衝突と対峙」といった主要な論点を例証しています。

L-2 ワット・プーとチャンパサック文化園内の関連遺跡
1,000年以上前に設計された人跡遺跡です。ヒンドゥー教における自然と人間の関係を表現するために、山頂から川岸を軸として寺院や祠、水道などが10kmにわたって幾何学的に配置されています。この一帯は5世紀から12世紀にかけて発掘した所で、主にキルメール帝時代のものです。



ASEAN各国への旅行者数



ASEANへの日本人旅行者数 2011年)



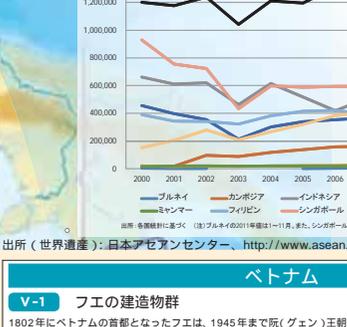
日本への外国人旅行者数 2012年)



ASEANへの日本人旅行者数の推移



ASEANへの日本人旅行者数の推移



マレーシア

M-1 キナバル国立公園
ボルネオ島北部、マレーシアのサバ州にあるキナバル国立公園には、標高4,095メートルのキナバル山がそびえ立ちます。麓の豊かな熱帯低地帯や熱帯雨林に始まり、山林森林帯、亜高山帯森林帯、低木帯、と標高に応じて幅広い植物が分布しています。東南アジアにおける植物多様性の中心ともいわれ、熱帯地方に分布する植物のほか、ヒマヤラ、オーストラリア、マレーシアのものなど、非常に豊かな植物相がみられます。

M-2 グマン・ムル国立公園
ボルネオ島サラワク州に位置するこの国立公園には、多様な生態系とカルスト地形が見られます。52,864ヘクタールのうち17%は生動物区、約3,500種の植物多様性(シダ植物と種子植物)が生息しています。特にヤシの種は豊富で、20属109種が記録されています。2,377mのグマン・ムル(ムル)の尖峰がそびえ、これまで確認されている計295種の鳥類の数は、何万ものツルバネやコウモリが生息しています。

M-3 マラッカとジョージタウン、マラッカ海峡の古都群
マラッカ海峡沿いに位置するふたつの歴史的名町、マラッカとジョージタウンは、500年間にかけて、マラッカ海峡の東洋と西洋の交易と文化交流の地として栄えてきました。アジアとヨーロッパの影響は、様々な形での文化遺産としてふたつの都市に見受けられます。マラッカの建造物、教会、広場や橋は、15世紀初期のマレーサルタン時代の作り、またアジアに始まったポルトガルやオランダによる統治の影響を受けたものです。一方、ペタン島のジョージタウンには18世紀終わりの英国時代に建てられた住居や商館が残っています。ふたつの町の独特な建築的、文化的な景観は、他のアジアの国にも見られるようなものです。

M-4 レンゴン渓谷の考古遺産
緑豊かなレンゴン渓谷に位置し、2百万年近くわたる初期人類の生活を伝える考古遺跡です。同一の地域に人類が居住していた記録として最も長い記録のひとつであり、またアフリカ大陸以外で最も古い初期人類遺跡といわれています。野外や洞窟の遺跡は旧石器時代人類が道具を使った証拠を示し、いくつかの遺跡からは旧石器、石器、金属器時代の文化的影響を受けた、比較的大きな規模の半定住型の集落があったと見られています。

フィリピン

P-1 フィリピンのパロック様式教会
マニラ、サンタマリヤ、パオア、ミアガオにあるこれら4つの教会は16世紀後半のスペインによる建設の中でも初期のもので、中華系・フィリピン系職人やヨーロッパパロック様式を再解釈して建てた独特な様式です。

P-2 トゥパタハ岩礁自然公園
広大な面積を誇る公園には、ノース・リーフとサウス・リーフと呼ばれるリーフ(礁)があり、環境には様々な海洋生物が生息します。北の小島には鳥類やウミガメの巣や産卵地があります。100メートルのドロップオフ、珊瑚で出来た島や、ラグーンなど手が届かない珊瑚礁が見られるすばらしいスポットです。

P-3 フィリピン・コルディレラの棚田
ルソン島北部山岳地帯に暮らすイファガタ族は2,000年もの間、山の斜面に棚田を築いてきました。イファガタ族特有の神聖な広場や、独自の社会構成は日々受け継がれ、その結果、人間と自然の調和を象徴するかのよう、美しい棚田が毎日に残されました。

P-4 エブルト・プリンセサ地下河川国立公園
すばらしい石灰石のカルスト地形と地底川があり、その川は海に直接注ぎ込むため、下流では潮の影響を受けています。この一帯は多種多様な生物の生息地となっており、山から川まで続く生態系をはじめ、アジアのなかでも重要な森林地帯を含んでいます。

P-5 ビガン歴史地区
16世紀に造られたピガン地区は、スペイン植民地時代に設計されたアジアの町の中でも最も保存状態が良い町です。フィリピン、中国、ヨーロッパの様々な影響を受け、東アジア・東南アジアでも類を見ない独特な文化と街並みが残されています。

タイ

T-1 トゥンマイ ファイ・カ・ケン野生生物保護区
ミャンマー大陸にみられる60万ヘクタールにわたり広がるこの保護区には、東南アジアで知られる森林のほば全タイプが比較的よい状態で残されており、大型哺乳類(特にトラと象)や大型鳥類をはじめ、多様な生物が生息しています。

T-2 古都スコタイと周辺の古都
13世紀から14世紀にタイ族最初の王朝がこの地に築き、このタイ王朝初期の歴史ともいえる数多くのすばらしい遺跡があります。この偉大な文明社会はこの時期、周辺から様々な要素を吸収しつつ地元の伝統文化を継ぎ受け、「スコタイ様式」と呼ばれる文化を築きました。

T-3 古都アユタヤと周辺の古都
スコタイ王朝の後、2番目の王朝として1350年ごろからビルマ軍に侵襲され、16世紀まで栄えました。仏壇や社大僧院などの遺跡から、当時の華やかさが感じられます。

T-4 パン・チェン遺跡
東南アジアで発見されている有史時代の居住遺跡の中でも非常に重要なもので、人類の文化的、社会的技術発展の段階を示しています。この遺跡には、この地域で農業が営まれ、また金属器から作られた使用されている最古の証拠が見られます。

T-5 ドンバイエン カオヤイ森林地帯
東南アジア国境近くのアラバ国立公園から西はカオヤイ国立公園まで、230キロにわたって広がる森林地帯です。起伏の多い山岳地帯で、24種の絶滅危惧種を含む800種以上の動植物が生息しています。国際的に絶滅の危機に瀕している種が生息する重要な熱帯雨林の生態系を保護するといふ点からも重要な地帯です。

ベトナム

V-1 フェの建造物群
1802年にベトナムの首都となったフェは、1945年まで阮(グエン)王朝の政治、文化、宗教の中心でした。ゆったりと流れるフオン川が、フェの美しさをより印象的にしています。

V-2 古都ホイアン
15世紀から19世紀に栄えた東南アジア貿易港のなかでも非常によく保存された町です。建物や街並みには国内外の影響が見受けられ、すばらしい雰囲気をつくっています。朱印貿易が盛んだった頃には日本人町が形成され、16世紀末には日本橋が架けられました。

V-3 ハロン湾
トンキン湾内に位置するハロン湾は、大小1,600ほどの無人の島々が石灰岩の柱のように海から突き出し、社大な眺めを作り出しています。

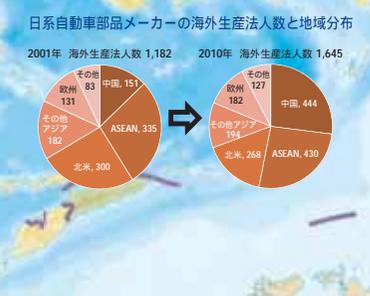
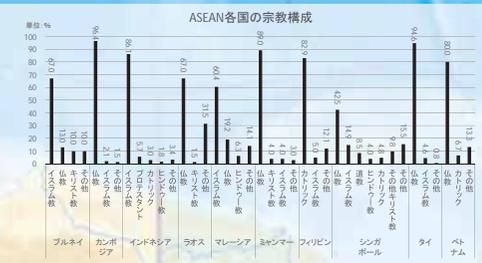
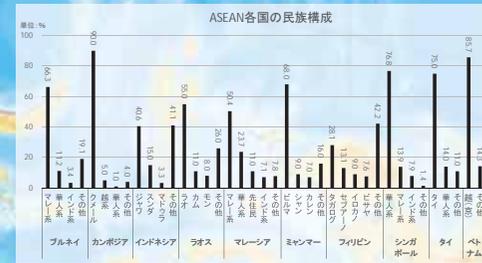
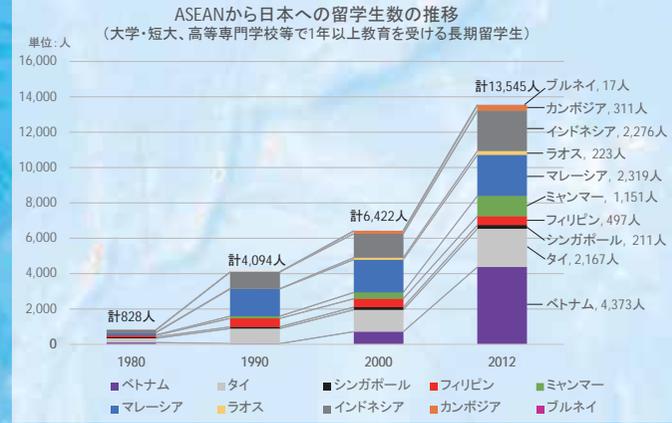
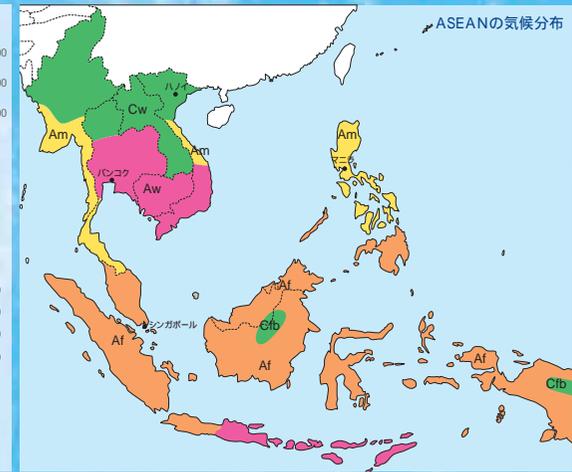
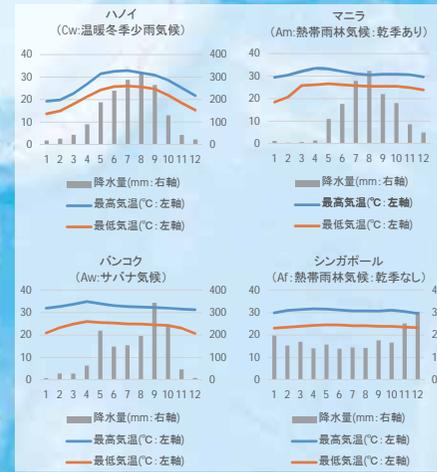
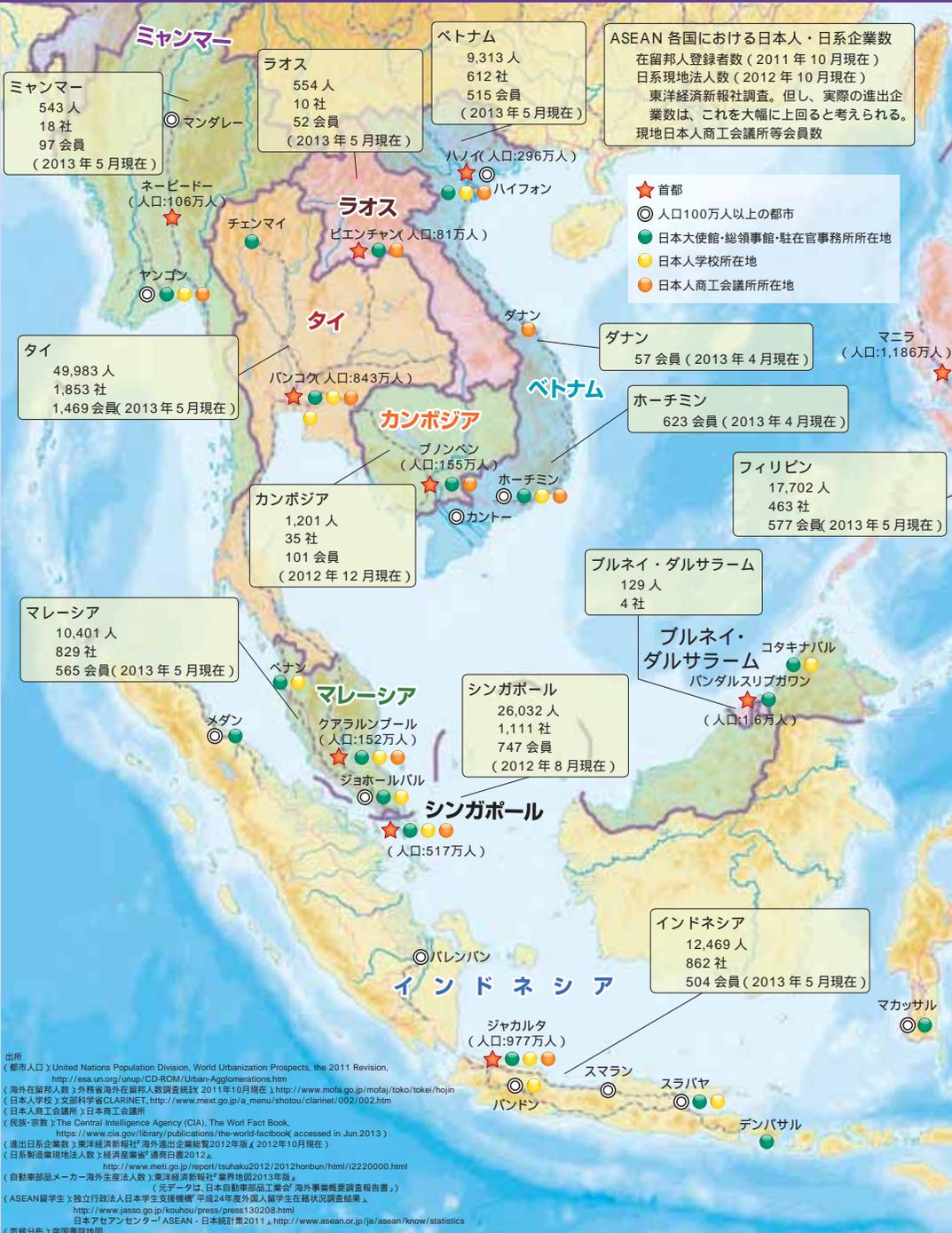
V-4 ミーソン皇城
4世紀から13世紀にかけて、現在のベトナムの海岸部に、インドのヒンドゥー教の影響を受けた独自の文化が開花しました。長い間チャンパ王国の政治的・宗教的中心だったこの地には、その文化の残したすばらしい寺院の跡などが数多くあります。

V-5 フォンニャー・ケーバン国立公園
古生代(約400年前)より発達したアジア地域最古の主要カルスト地形です。大規模な地殻変動を経て、重要な地形的特徴をあらわした複雑な景観がみられます。ラオス国境にまで続くこの広大な地域には65kmにもわたる洞窟や地底川などが数多くあります。

V-6 タンロン遺跡
タンロン遺跡は、旧ハノイ城跡とタンロン城跡をあわせたエリアを指し、7世紀から19世紀頃にハノイの行政中心地だった場所です。ベトナム最初の長期王朝を築いた李朝(リー・タイト)が1010年に今のハノイへ遷都を行なった。1匹の黄金の龍が現れたことから、都をタンロン(昇龍)と名づけたことには由来があります。

V-7 ホー王朝の城塞
風水の原理によって建てられた14世紀ホー(胡)王朝時代の城塞は、14世紀後半のベトナムにおける朱子学の開花と、その東アジアへの影響を示しています。この城塞は、風水の原理によって、マー川とオタイ川の間に広がる平野、トゥオン山とドン山の交わる風光明媚な場所に位置しており、東南アジアの新しい橋のスタイルの模範的な存在と見なされています。

10. 諸々マップ 在ASEAN進出日系企業・邦人数他



出所
 (都市人口) : United Nations Population Division, World Urbanization Prospects, the 2011 Revision, <http://esa.un.org/urmap/CD-ROM/Urban-Agglomerations.htm>
 (海外在留邦人数) : 外務省海外在留邦人数調査統計(2011年10月現在), <http://www.mofa.go.jp/mofaj/tokei/hojin/>
 (日本人学校) : 文部科学省CLARINET, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/002.htm
 (日本人商工会議所) : 日本商工会議所
 (民族・宗教) : The Central Intelligence Agency (CIA), The World Fact Book, <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook> (accessed in Jun.2013)
 (進出日系企業数) : 東洋経済新報社「海外進出企業総覧2012年版」(2012年10月現在)
 (日系製造業現地法人数) : 経済産業省「通商白書2012」, <http://www.meti.go.jp/report/tshaku2012/2012honban/html/t22200000.html>
 (自動車部品メーカー海外生産法人数) : 東洋経済新報社「業界地図2013年版」(注)データは、日本自動車部品工業会「海外事業概要調査報告書」(ASEAN留学生) : 独立行政法人日本学生支援機構「平成24年度外国人留学生在籍状況調査結果」, <http://www.jasso.go.jp/kouhou/press/press130208.html>
 (気候分布) : 気象庁「ASEAN - 日本統計集2011」, <http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/statistics>



ASEAN-JAPAN CENTRE

国際機関日本アセアンセンター(東南アジア諸国連合貿易投資観光促進センター)